

これまでの意見交換会等における主な意見

1-1 第1回福井県長期ビジョン推進懇話会

○子育て関連

- ・他県と比較しても、出産・医療や子育てにおいて福井県は手厚いサポートを受けることができると感じている。
- ・合計特殊出生率が高い県であり、「子育てだったら福井」ということをもっとアピールしてほしい。
- ・子どもが自然の中で生きる力を育み、様々な体験をすることができる場が福井県にあるため、それを活かし、外に発信していけると、差別化が図れるのではないか。
- ・全天候型の遊び場など、子育て支援の政策が手厚く助かるという声がある一方で、使いにくいという声もあるので、保護者からの声を聞いて工夫していただきたい。
- ・福井は割と子育てに寛容な地域であるが、小さい子に冷たい目を向ける人もいる。社会全体として子育てを応援していくという雰囲気を作り、未来に希望が持てる社会になるとよいのではないか。
- ・育児休暇や時短勤務なども徐々に広がっているが、職種によって取りにくい場面もあるので、みんなが取れるような形になるとよいのではないか。
- ・保育者の質と量の確保が必要であるが、保育者の仕事へのマイナスのイメージが先行していることに危機感を感じる。
- ・ここ5年ほどで父親の子育てへの参加率が上がり、当たり前になってきていると感じる。
- ・女性が進学などで外に出て行っても、福井に帰ってきたいと思ってもらえることが大事であり、未来への種まきをしていく時期だと思う。そのためには、大人がどういう姿を見せ、言葉をかけていくかが大事であり、福井には何もないと言うのではなく、楽しんでいる父、母の姿を見せたり、それを見守るシニアの方々がいるという社会が成り立っていくとよいのではないか。

○多様な人材の活躍関係

- ・男性がいったん県外に出ると、一人暮らしにより家事力、家庭で活躍できる力を高めることができるため、Iターンだけでなく、Uターンにも力を入れていくとよいのではないか。
- ・女性活躍の土台は男性の家庭進出であるため、男性が家事を学ぶ機会を創出していくことが重要ではないか。
- ・男性を支援するという企業は全国的に珍しいが、まだないものを育てていく土壌ができるとうよいのではないか。
- ・女性が活躍し、男女共同参画の社会を作るために、男性の家事・育児参加のための講座や子どもの教育などに力を入れているが、今後、企業との連携を強化することも必要。

- ・女性が決定の場に参画できることが大切であるが、県外の方々からの刺激は良いので、県外との交流も大事ではないか。
- ・自由な発想でものを作り、こんなに地元が楽しいのだということを伝えるという意味で、女性起業家はおもしろい切り口であると思う。新幹線新時代を迎えたこの時こそ、女性の発想でそういう動きを作っていけたらおもしろい。
- ・とんがった人が新しいアイデアを出す。とんがった人を育て、受け入れていく多様性も必要ではないか。
- ・労働力不足が福祉分野でも喫緊の課題であり、長く福井に住む外国人材をこれからも増やしていくことが重要ではないか。
- ・技能実習生など外国人が増えているが、福井県では車がないと生活ができない。しかし、外国人の多くは運転免許を持っておらず、日本語が堪能でない方だと自動車学校に行くことができないため、自動車学校等の多言語対応も必要ではないか。
- ・外国人住民が長く、楽しく住むことができるよう、外国にルーツを持つ子どもとその子どもの保護者への支援を行うべきはないか。
- ・日本と外国では学校の入学方法や卒業方法が全く違うので、学校に入る前の講座などの支援が必要。

○教育関連

- ・義務教育において、子どもの特性・特技を生かし、手に職を付ける農業、工業、デザイン系など、個性を伸ばそうとする教育がまだ十分ではないと感じる。
- ・どの業界でも専門職資格をもつ技術職が足りず困っているが、義務教育の段階で改善できる点があるのではないか。
- ・教員の働き方改革は進んではいるが、部活動や日常の業務に追われて業務改善ができていない部分もあるのではないか。
- ・農業や林業が大事な産業であるということが中学生やその保護者に伝わっていないため、入学してくる生徒が少ないことが課題。
- ・県内の大学でやりたいことをできる学部がないのか、県外大学に出ていく生徒がいる。
- ・生涯学習のようなことを全世代でできるようになるとよいのではないか。
- ・自分自身で気が付いていない個性に他人が気づき認めるための教育が全世代でできるとよいのではないか。

○産業、技術、労働関連

- ・観光は地域とつながっていかなくてはいけないが、地元の人に良いと思ってもらうことに課題がある。チャレンジに対する理解もまだ不十分だと感じる。
- ・事業は計画通りにいかず、浮き沈みがある。チャレンジの立ち上がりの部分だけを応援するのではなく、その先に失敗もしながら良くなっていくという部分を評価、応援することが大事ではないか。
- ・地元で働きたい若者の受け皿になるよう、チャレンジに対する投資を呼び込めるとよい。

- ・いちほまれは知名度・認知度が上がってきているが、全国との競争の中で、価格が上がるまでには至っていないため、しっかりと認知度を上げ、ブランド米に育てていくことが必要。
- ・福井でとれたものを福井で食し、お金を巡回させ、外貨を稼ぐという取組みを進めていかななくてはならないと思う。
- ・創業相談に来る方の4割が女性であり、積極的にサポートしていくべき。経験値のあるシニアの方々とのマッチングができるかよいのではないか。
- ・新たな成長エンジンの創造による経済の好循環のために、北陸新幹線沿線地域の産業の連携を強化していくべきではないか。
- ・ものづくりは廃棄物が多いため、福井だからこそ小さく循環させ、環境共生・資源循環でつなげていくべきではないか。
- ・新幹線の開業効果を継続することが重要であるが、人材不足が課題。
- ・この先、国内の旅行マーケットが一気に縮んでいく可能性があるため、インバウンドの観光をいかに取り込んでいくかが重要。
- ・観光はあくまでツールであり、色々なところとタッグを組んで連携していくとよいのではないか。
- ・新幹線が来て盛り上がっているように見えるが、逆に、人が出てしまったり、県外の事業者に頼ることで資本が県外に流出したりするという懸念もある。
- ・北陸新幹線の延伸はチャンスであるが、駅でタクシーを呼んでも来ないなど、福井に来た後の公共交通機関がうまくいっているか疑問に感じることもある。
- ・人口減少に打ち勝つために、小さい県であることを活かして、先進県としてDXを一気に広げるとよいのではないか。

○文化、スポーツ

- ・県の政策の中で文化が重要視されるようになってきており、非常に望ましい変化であると感じている。
- ・ブランド戦略でも「千年文化」がキーワードになるように、文化は地域の歴史の積み重ね、固有の魅力であり、価値の源泉としての文化が打ち出されている。寛容性を作り出すのも文化芸術であり、創造性を育み、多様性を受け入れる基盤になるもの。
- ・文化事業が目に見える形で盛んになってきており、アーティスト・イン・レジデンスのような事業も増えている。アーティストが好む地域は、関係人口が増え、定住にもつながるオープンな地域になっていくため、そのような事業がもっと盛んになってくるとよいのではないか。
- ・昨年度、文化振興プランが策定されたので、それを着実に実行することが非常に大事であり、これまでにない発想を生み出す人材を作っていくためにも、文化、アートに触れることが大切。
- ・シビックプライドをいかに作り上げ、QOLをいかに向上していくかが大事であり、スポーツにはその可能性がある。

○医療、福祉

- ・ 今後の福祉は、保健・医療だけでなく、就労、教育、住まいなど、あらゆる分野と連携した包括的な支援体制が必要。
- ・ 物価高騰や人材不足により福祉事業所は厳しい経営環境におかれているため、財政支援等の総合的な対策が必要。

○その他

- ・ 子育て、ビジネス、福祉など様々な領域で、リソース、コストを共通化できるところがたくさんある。ノウハウやお金、機械などを共有していくことが大事。
- ・ 地元の間人を充実させるという視点を忘れず、福井県民が主人公で、その充実感、達成感が味わえる長期ビジョンを組み立てていただきたい。
- ・ 観光入込客数という量の目標値だけでなく、質的な目標値もあってよいのではないか。例えば、観光消費額、あるいは県民が幸せになる観光といったことの数値化ができないか。
- ・ 県民の幸せのベースとして、安心安全が重要であると思うので、ビジョンにはそのような数値目標も入っているとよいのではないか。
- ・ 福井県のコロナ対策は日本、さらに世界でもトップクラスと言えるが、これは行政、医療機関、県民などステークホルダーがお互いを信頼し、一つになったから。小さい県だからこそできたので、このパワーを活かしていただきたい。
- ・ メディアと一緒にあって正しい知識を伝え合うメディア戦略も必要ではないか。

1-2 第2回福井県長期ビジョン推進懇話会

○子育て関連

- ・友達やシルバー人材も子どもの見守りができる。子どもは一人で育つのではなく、コミュニティの中で育つので、コミュニティが大事
- ・子育ては当事者にならないとわからない。学生と親子がふれあい、学生に子どもを見てもらったり、シニア層に子どもを見てもらったりする場を作ることが大事。

○多様な人材の活躍関係

- ・チャレンジを広げていく中ですぐにうまくいかないこともあるということに対する理解が必要。
- ・投資により、利益だけでなく様々な地域活性化の効果が生まれてくるという循環をどう作っていくかを一緒に考えていけるとよいのではないか。
- ・多様性は違いがあることをそのまま認め合うことで、個の尊重が基本。
- ・福井には良い伝統も残っているが、しきたりや押しつけも強く、住み続けることの阻害要因にもなっている。価値観の変化に対応する形で、誰もが生きやすい社会を作ることが大事。
- ・男性も女性も誰もが自分らしく、自分の役割を社会で果たしていくことがダイバーシティの実現。固定化している役割を見直し、個の尊重が本質であることを学習できる機会があるとよい。
- ・リソースの配分が最適化されていない。個を尊重しながら、それをどう最適に配分するかが大切。発想の転換が必要。
- ・特定技能や大学を卒業した外国人は、スキルを持っているにもかかわらず、やりやすい仕事にしか就けていない。日本語があまりできないなら、日本語を教え、日本の社会に入れるようにするべき。
- ・多様性は「みんな違ってみんないい」ということであり、変えないことや、こうでなくてはいけないということが問題
- ・人口減少と言われているが、一人ひとりが3人分くらいの力を発揮すると、すごく力のある県になる。

○教育関連

- ・義務教育の中で学力に固執していることが多様性、寛容性を阻んでいる。
- ・多様性のある教育として、技術職や学力以外の知識・技術に関する教育を広げてほしい。そのために、個を育てる、スキルを育てるという教育ができればよい。
- ・労働者のスキルを高めるために、学校の教育段階でも人材育成を視野に入れたプログラムを取り入れるべき。
- ・点数評価ができるものはA Iができる時代であり、人間にできることを伸ばさなけ

ればこれからの時代は通用しない。

- ・発想力やディベートの力を評価するという教育に先生の方が付いていけないのではないか。AI が力をつけていることを認識し、教育を変えるための話し合いに結び付けることが大切。

- ・地域愛を育てるための歴史教育として、先人がどういう思いを地域に注ぎ込んだのかを考え、体感してもらう授業ができないか。

- ・コミュニケーション能力や、忍耐力、責任をもってやり遂げようとする力など、非認知能力が育っていない。小学校、中学校、高校と上がるにしたがって、学力の方に偏る。社会人になった人材が責任をもって、困難を乗り越え、達成感を感じられるよう、その素地を育てるための教育が大事

- ・教育現場だけでなく、家庭教育も大事であるが、家庭で抱え込むのではなく社会で育て

ていくべき。福井モデルとして道筋を示せるとよい。

○産業、技術、労働関連

- ・選ばれる福井の部分は残して、もっとどんな人もチャレンジできて、その人らしさが活かせる福井に変わっていけば、魅力が上がり、UI ターンも促進できるのではないか。

- ・テレワークが広がっているが、地域の方は、仕事は事務所に行くものと思い込んでいる。仕事のやり方が多様になっていることが分かってくるとよい。

- ・ワークスタイルやライフスタイルが多様化していることが伝わっていない。行政が時代の構造を示し、このようなワークスタイルやライフスタイルがあることを広報するべき。

- ・福井で勤めている人は、このような商品、サービスを生めば、福井でお金を生めるという発想ができないため、気づかせてあげる必要がある。

- ・起業家的発想を育てるためのセミナーなどにより、起業家精神を地域の一人ひとりにもってもらうと、福井で夢を描ける。

- ・定年退職を迎えたスキル、人脈を持っている方が、二拠点生活の一つとして福井を選び、行政とともに何かをやって成功事例を挙げていくことが良い。

- ・都会以上の生活水準を実現できるというキャッチコピーはすごく良い。子育て環境、自然環境の中で、人の人生全部に関わる体験を福井でならできるといふ謳い文句でUI ターンにつなげ、成功事例を作り、見える化して、関心がなかった人を巻き込んでいくことができないか。

- ・若い女性が福井に帰ってこないのは大きな問題であるが、企業の役割が大きい。企業の男女の役割分担意識や男性優位の企業文化を変えなくてはいけない。

- ・結婚できない人が増えているのは非正規労働が増えているから。子育てをしていくような世代の正規雇用を増やすということまで踏み込まなくてはいけない。

- ・福井の独特の三世代同居は女性の家事負担が大きいので、直していくべき。

○その他

・長期的な視点に立つべきであり、目先の数字にとらわれない見方が大事。費用対効果という形ばかりを追うと評価しづらく見えにくくなる。

・全てが複合的につながっているなので、それらがどうつながっているかというデザインをわかりやすくするべき。

・働き方、生活の仕方が多様化し、育児休業も多様化が進んでいく中で、誰にとってどうなのかということと、目先の数字に一喜一憂しないことが大事

・世代、市町、職業などの違った対象同士をかき混ぜていくべき。互いを認識し、知るということが大事

・流行りを追いかけると福井らしさがなくなる。方向性を決め、独自性を貫いてくべき。人口減少していく中で、何を残し、何をなくすべきかを見極めるためにサイクルを回していくことが大事

資料全体として言葉がきれいすぎて、自分事になってこない。もっと具体的に書くべき。

・Uターン、Iターンの人が地域と交わり合うことが大事。よその人が加わることによって前から住んでいた人も新しい考えを持つようになるので、地域に溶け込んでいけるようにするべき。

・地域で活躍する人を拾い上げ、ロールモデルを作っていくことが大切

・閉鎖的、寛容性がないと言われるが、おせっかいが違うふうに伝わり、変換されてしまっているのではないか。

・「福井は寛容性が低い」というデータは興味深い。多様性は寛容性を高めていくこととセットで考えていただきたい。

・その人にとっての生きがいと利他的な生きがいとよい。福井県は「素敵なおせっかいな県」になるとよい。

・ウェルビーイング指標は他県との比較ができるので、そういうツールを使うとよい。

・安心安全な社会基盤についてももっと議論するべき。

・今回の資料で子どもに福井に居続けてほしいというニュアンスを強く感じ、違和感を覚えた。外に出て世界にはばたけというくらいのスタンスでいてほしい。

・都会以上の生活水準は、本当に福井で実現できると思うが、都会並みの給与水準という方向ではない。

2 県民への個別ヒアリング

○子育て関連

- ・仕事と育児の両立で悩んでいる働くママにとって、もっと働きやすい環境をつくること大事。
- ・福井が好きで何か貢献したい思いはあるが、子育てと仕事で余裕がない。
- ・子どもの遊び場、特に屋内施設が少ない。
- ・敦賀では不妊治療を専門にしている病院はなく、上の子を育てながら仕事もして2人目の不妊治療のために市外へ通うというのはかなり難しい。
- ・嶺南には34週以降の赤ちゃんしか見れる病院がなく、手続きなどを経て県立病院などに到着するには相当な時間を要するが、その間に赤ちゃんが出てきてしまったら助からないかもしれない。命を救うための病院設備の充実も必要。
- ・高校卒業時は「絶対に福井からでよう」と考えていましたが、今は本気で住みやすい街だと思っています。

○多様な人材の活躍関係

- ・空き店舗などをリノベし、安い賃貸料で県内外からやる気のある面白い事業にチャレンジしたい人を集めるべき。
- ・まだまだ精神的にも肉体的にも健康なのに「定年」等で現役を離れた中高年世代等が「次世代」や「地域社会」の為にまだまだ出来ることが一杯あることの「発見」「自覚」が足りないと感じる。「おもしろい」をキーワードに積極的に活動できる「場」づくりがもっとも必要ではないか。
- ・様々な「やりたい」にチャレンジできる場を整えることが重要ではないか。
- ・「挑戦」をする人が増えれば、おもしろい！やワクワクは付いてくる。「挑戦」したい！と考える個人のマインド向上と環境づくり（コスト面や機会）が必要。ふくい独自の文化を大事にしつつ、新たな挑戦のしやすさを確保することが重要ではないか。
- ・福井にも東京の若者と大差ない、アクティブな、面白い、何かを成し遂げようとしている若者は実はたくさんいるので、その挑戦をもっとフォローしてほしい。
- ・全国的にみて福井県の寛容性は高い方ではないと感じるので、新しいことを始めやすい社会にすることが大事。
- ・世代別で「おもしろい人」の特集（YouTube や tiktok、Instagram など誰でもみることが出来るソーシャルメディアにおいて）をすることにより、大人だけではなく、10代の小中高生なども“ビジョンを達成した、福井県のために自分も”という意識にはならないが“自分も何かやりたい、自分だったら”と考えるきっかけになり、それが強いては福井県民全体の底上げや長期ビジョンの達成につながると考える。
- ・若い人はどんどん将来性のある分野で起業するノウハウ、マインドを育てるとともに、資金面などでの支援の体制を充実していくべきではないか。
- ・チャレンジする若者を増やすだけでなく、若者のチャレンジを応援する中年、高

年者を増やすべき。

○教育関連

- ・県民自身が自分の住んでいるところに誇りと希望を感じ、磨きをかけるため、1 県民 1 工夫 1 実践をしたくなるようにならなければならない。
- ・福井に生まれ育ったことへの自信と誇りを若い人に持ってもらうことが必要ではないか。
- ・一時的に（大学卒業時など）都会に出たいという気持ちは誰しもあるので止める必要はない。高校生などをターゲットに福井の良さを PR するのではなく、県外に出た福井県出身の方、福井に親戚などゆかりのある方をターゲットに、福井に住むことのメリットを伝えた方が良いのではないか。
- ・学校の先生は厳しいのもいいが、ひとつの価値観で縛りつけるようなことは変えるべき。

○産業、技術、労働関連

（産業）

- ・二次交通がより便利になるようにすべき。
- ・県内にいろんな職種の企業を誘致し、県民の職業選択の幅を広げる必要があるのではないか。
- ・企業も個人経営の店舗も、地元の文化伝統等を活かした、福井のアイデンティティが至る所に感じられる創意工夫が大事ではないか。
- ・福井県の伝統やこれまでの実績を踏まえたうえで、新しい付加価値を付けるということをいろんな分野でもっとやっていくべき。伝統工芸産業ももっともって工夫の余地があるのではないか。ライフスタイルの変化に合わせて、新しい用途をもっと開発すべき。
- ・宇宙産業へのチャレンジは素晴らしい取り組みだと思う。福井県は明治大正頃から、大変、好奇心旺盛で、何事にも進取の精神で取り組みをしてきたと思う。
- ・地球環境重視の経済を目指したパラダイムの転換をするための経営改革や、起業を推進することが大事ではないか。
- ・経済規模の拡大は考えずに、生活のクオリティをいかに高めるかを重視した経済に転換すべきではないか。

（労働）

- ・仕事に対する満足度を高めるためには、企業経営者が職員（従業員）のことをいろんな面でもっと考える必要があるのではないか。
- ・長いキャリアの中で、自分の興味の変化に合わせて転職が柔軟にできる職業風土、雇用社会を形成していく必要があるのではないか。
- ・経済界、行政など全ての組織・機関・団体は、年功序列や一斉昇給昇格、新卒の定期採用、終身雇用など古い体質から脱却し、人財の採用、育成、配置、登用などの人事管理手法を刷新する必要があるのではないか。

- ・本人の希望に沿った配置や、やる気のある若手の登用など、一人ひとりのキャリアアップを実現し、やりがいを感じられるようにするべき。
- ・能力が高い人材は有名な大企業や行政機関への就職に限らず、もっと自由な発想で選択肢を拡げ、一人ひとりが職業選択ができる教育、労働環境が求められる。
- ・住民の生活を支える仕事（介護、保育、医療、教育など）に従事している人の能力に見合った待遇改善が必要ではないか。
- ・世間では運送ばかり取り上げられるが、港湾荷役業者も人手不足による業務量の増加や土日曜日での積み下ろし業務もあり時代と逆行している。大変なのは陸の運送業界だけではなく、海の運送にももっと目をむけるべきではないか。
- ・顧客第一主義の企業が多いなか、People First の考え方を広めることは難しいが、実現できれば素晴らしく、福井県への移住希望者も増えるのではないか。

(技術)

- ・これから人口が減ることを考えると、人口が減っても廻せる仕組みづくりを考えなければならず、そのためにはDX化は避けて通れない。
- ・アナログからデジタルへの転換により、これから新たに生まれてくる産業、衰退・消滅に向かう産業、業種などが出てくるため、戦略的に取り組む必要があるのではないか。

○まちづくり

- ・県民にも来県者にも街歩きが楽しい地域づくりにもっと力を注ぐ必要があるのではないか。
- ・食べ歩きや散策するのが楽しくなる空間にするべき。
- ・街中のライトアップをするとよいのではないか。
- ・福井市中央公園が整備されたことは望ましいので、もっと照明や仕掛けなどを工夫し、魅力ある、人が行きたくなる憩いの空間になるとよい。
- ・店舗の外のテラス席で楽しく飲食できる空間など、安全が確保できる範囲内で、にぎわいづくりを優先すべきではないか。
- ・福井城址のお堀で、季節限定でよいから舟遊びができるとよいのではないか。
- ・福井ゆかりの人物の説明案内板などは、観光客へのおもてなしとして、常に磨きをかけるよう努力しないといけない。
- ・福井県内で面白い取組みが増えているのは感じる。イベントだけでなく、いつでも・だれでも楽しめるものが必要。
- ・「遊び」の視点を持って面白い空間を創れるとよいのではないか。
- ・治安、景観の維持と、新幹線開業から年数が経っていくなかでどれだけ来訪者を確保できるか、それらを両立するためのまちづくりをどのように行うかが課題ではないか。
- ・コンパクトシティ計画など、人口減少により縮小していくことを前提に、そのなかで豊かな暮らしを維持していく仕組みづくりが大切ではないか。
- ・福井県のブランドイメージをもっと発信していくべきと考える。新幹線は早く関

西まで繋げないといけない。

- ・新幹線開業で福井県は今が一番盛り上がっている。これを機に県外の方は勿論、県内の方にも福井の良さを再確認出来るようなイベントが続くとよいのではないか。

○文化、スポーツ

- ・嶺北と嶺南の時間距離が今までより縮まり、人の往来はもとより、文化芸術の往来も期待したい。
- ・アリーナ構想は、良い面も課題も含めて、もっと開かれた議論を大々的にしてほしい。

○安全・安心

- ・幸せは「安全」と「安心」の上に成り立つので、「水」「エネルギー」「食糧」といった、あたり前と思っている足元を、今一度、見直す必要もあるのではないか。
- ・人が生きるための安心安全なまちづくりこそが、今後の日本社会の中で、世界の中で、差別化のポイントになるのではないか。
- ・不法滞在、不法入国の外国人の増加による犯罪が増加しないか心配。
- ・緑を減らすのではなく、水や、空気が綺麗な福井県を保ってほしい。

○その他

- ・市内の状況の共有化、ひいては効率がまだまだだと感じる。
- ・食べ物や自然、県民性も素晴らしいですが、皆さんとっても謙虚というか「どうせ福井なんか」といった謙遜が多い。
- ・遊んだり買い物したりするところが少なく、県外に遊びに行く回数が多く驚き、不便だなと感じる事が多いが、その不便さがどこことなく心地よく感じることもある。

3 市町別意見交換会

福井坂井地域

○福井市

(1) 福井県の課題

- ・二次交通のバスなど様々なバスが増えており、バスの運転手が不足している。
- ・新幹線開業した今、何が希望になるかという議論が必要
- ・高齢化が進み、担い手不足が問われる中で、高校に農業コースがあるとよい。
- ・嶺南において原子力の代わりの産業を考えなくてはならない。
- ・関東圏の高齢の方が福井に旅行に行くイメージが描けない。発信も足りていないし、足りていない拠点もある。
- ・福井の企業は男性が強く、女性の管理職と会っても男性が前に出てくる。
- ・県内就職者が少ないのは企業の魅力がないからであり、それは賃金の低さ。
- ・集落で自助する人が減っており、災害時に自助ができない。
- ・自由や楽しさを求めて転出する女性が多い。
- ・魅力的な職種、企業が足りず、県内就職率が低い。
- ・保育園は熱を出したらすぐに迎えに来てくれと言われるため、責任ある仕事ができない。
- ・一人暮らしの除雪は自治会長が担っているが、後継ぎが少なくなっている。
- ・留学生の就職や進学の進路において福井は選択肢が少ない

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・人の取り合いをするのではなく、今住んでいる人がより楽しく、より豊かに暮らせるようにしていくべき。
- ・結婚や子どもを産むことを押し付けるのではなく、結婚したい人、子供を産みたい人を手厚く支援するべき。
- ・新卒採用の獲得を目指すのではなく、福井県の魅力を理解してもらえるUIターン者をターゲットにするべき。
- ・人口減少の中で、パイの取り合いではなく、自分自身にしかできないものが何かという本質的なところを顧みるべき。
- ・働く、学ぶ、遊ぶなど、新しいライフスタイルを、部局・官民が連携して協働型で進めていくべき。
- ・会社、会社員というコンセプトがもう古い。福井発で新しいひな型、モデルを発信できるとよい。
- ・「安心の福井」に向けて、17市町ごとの若い人だけのワークショップを開催するなどして、若い人の意見を聴くべき。
- ・男女共同参画に向けて、思い切ってクォーター制度の導入などを議論すべき。
- ・これから伸びる企業が立地できるよう産業団地を整備すべき。
- ・子どもたちを中心としたまちづくりを行うべき。
- ・移住者が福井の良さを発信してくれるので、移住者の活躍の場を増やしてほしい。

い。

- ・若い人が自由な発想でいろいろな活動ができるよう、温かい目で見守ってほしい。
- ・なぜ福井に移住したのかというプロセスを見て、差別化や発信をしていくべき。
- ・子どもをずっと福井にとどめるよりは、どんどん出て行ってもらいながら、福井との接点の機会を増やしてほしい。
- ・いったん東京に出た人が、子育てなどを機に帰ってきたいと思えるよう、年に数回でも地元との関りがあるとよい。
- ・「若者の流出を止める」というメッセージは若者に対してマイナス。むしろ「若者の転出応援」と言ったうえで、何かがきっかけで戻ってくるのを全力でサポートしていくべき。
- ・愛着を高めるために、県民の県内旅行を促すべき。
- ・日本一など、順位で競えるものは、他県がお金をかけるとすぐに抜かれる。密度の観点で政策を考えるべきで、エリアを限定すれば濃くすることができる。
- ・地域の方と外国人が顔の見える、名前のわかる関係になる仕組み作りが大事

○あわら市

(1) 福井県の課題

- ・青年団の人数が減り、現在は5名程度。村の祭りをやりたいが、仕事上休みが合わないと難しい。
- ・草刈りがしんどい。どうすればよいかわからない。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・子供のころにあったような、同世代が一緒になって何かするようなコミュニティがあるのが理想的。
- ・シルバー世代が生き生きと元気であることが必要。栄養、運動、社会参加の3つのポイントが重要。
- ・すべて支援してもらうのではなく、自分たちでできない部分を支援してもらうことで、若い方たちと一緒に新しいことをやって明るい地域にしたい。
- ・みんなが見ている方向が同じであると、コミュニティ活動がうまくいき、活気が出てくると思う。
- ・長期ビジョンは、ある程度多くの人共感を得られるような政策理念を盛り込むべき。
- ・サードプレイス、会社や卒業後に集まれる場所が地域であればよい。

○坂井市

(1) 福井県の課題

- ・幸福実感度が低いのは働き盛りの30-50代。なぜそのような結果になるのか分析すべき。
- ・能登地震の影響か、水道の引き込み口の不具合があるため点検してほしい。
- ・「必要な視点」として、多様性、ウェルビーイングを挙げているが、それらの施

策が十分に盛り込まれていない。

- ・多様性への配慮から、「男女の出会い」を「信頼できるパートナーとの出会い」に変更するなど、引っかかる文言を減らすことも必要。
- ・農業、産業など様々な分野で収益性を上げることが重要であり、「稼ぐ」という観点を入れてもよいのではないか。
- ・災害時対応において、避難計画が絵に描いた餅という課題があり、この点も検討していくべき。
- ・原発に関する文言が出てきていない。地震の際に嶺南の原発の影響が心配。
- ・海洋プラスチックが大きな問題であり、市民、行政等にできることを整理するべき。農業でも対策を行っているが、コストが上がってしまう。
- ・らっきょうの生産が減っているため、園芸カレッジなどと連携し、担い手を増やしていくべき

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・ライフスタイルの異なる人と自治会のシステムが合っていないことを課題として聞いている。多様性、ウェルビーイングの観点から、自治会などと調整が必要ではないか。
- ・若狭牛の生産農家が廃業している中で、担い手の育成に向けて、学校教育で体験学習を取り入れるなど、次の世代を育てていくべき。

○永平寺町

(1) 福井県の課題

- ・担い手、働き手がない。人口減少などいろんな絡みの中でよい事業者と苦しい事業者の2極化が懸念である。4, 5年で一気に鮮明化していくのでは。
- ・高齢者がどう健康を保つかが重要。そのためにも公民館講座をどう維持していくかが課題。
- ・バスがなくなる危機感がある。山中温泉や加賀温泉と永平寺寺を結ぶバスが減便したことで、お客さんが非常に減ったと伺ったので、早々と解決したほうが良い。
- ・保育士不足が悩み。保育士のネガティブな印象が前面に出て、保育士の仕事の良さが伝わらない。学生の数も少なくなっているうえ、保育士を目指す学生も減っている。さらに、親御さんも大変だよと勧めない。
- ・少子化によって部活の活動が難しくなっている。クラブ化され、いい選手をほかの学校から引き抜いて強くしようとする動きが最近目立つ。何年か前に文科省によってたてられた計画が少子化によって違うことになっていることを認識してほしい。
- ・全国大会などの費用が掛かり過ぎである。子供の頑張りに影響がないよう何とかできないか。いい状況になればよいなと思う。
- ・年々降水量が増え、まとまって降る状態なので、砂防ダムや中小河川の土砂を除くなどの対策をしてほしい。
- ・地区の消防団のなり手が減ってきている。その中で、県は、消防団が少なくな

ってきたから自主防災がそのぶん役割を引き継げという印象を受ける。そのところは別々で考えてほしい。

- ・観光客が増えても門前はお土産屋さんしかなく、食事ができるところを考えてほしい。

- ・永平寺町内に心療内科がない。病気の人が病院に行くまでのアクセスが遠いため、受診をためらい知らず知らずのうちに悪化してしまう。なので、身近にあるとよい。

- ・プラットフォームのバリアフリーの整備が進んできているが、障害の方は、利用できる交通手段にスケジュールを合わせなくてはならないため、選択肢が狭い。また、自分から調べたり、アクションを起こさなくてはならないというハードルがある。マイノリティではあるが考えていってほしい。

- ・担い手不足が問題。定年延長で65歳になってもまだ働いて地元に戻ってこない人が多い。儲かる農業を模索していく必要がある。永平寺町の酒米やいちほまれ、スイートコーンなどの産地化、ブランド化することで、農業をやりたいと思ってもらいたい。

- ・若い世代がその転出する理由として。進学や就職したい就職先がなかった等で福井県を去ってしまうような形が多くいるので現状だなと思う。

- ・県立大学では、一年生の時に駅を見て回るような授業があるが、それ以降は地域との関わりが少く、なかなか福井県の魅力が大学生の方たちに伝わっていないのが現状。大学の授業で県内各地に出向いていく等、若い人たちにどう地域を知ってもらおうかというアピールをしていく事が大事。

- ・嶺北と嶺南でお見合いがうまくいかない。嶺南の男性のところに嶺北の女性が嫁いでもらえない。親御さんに都落ちと反対される。

- ・若い女性が県外で一級建築士の資格を取得して県内の企業に就職した際、1年間お茶くみだったため退職してしまった。勉強して帰ってきた際に受け皿をちゃんとしてあげたい。田舎は嫌だという人は多いが、それに匹敵する何かがあれば帰ってくると思う

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・新幹線開業の効果が門前だけ。一過性にならないよう、移住定住につなげられたら良い。

- ・インバウンドが他県と比べると、そこまで波が来ていないように感じる。ただ、これから徐々にインバウンドの波が来るので、今からその準備が必要。

- ・人口減少していく中でどう幸せに暮らすことができるかを考える必要がある。

- ・県でも保育士の良さ、魅力を発信してもらいたい。保育士の育成にイメージをよくすることが大事。

- ・多様性により、ヴィーガン用の食事など要望が増えてきているため、そのようなことに対応したパックなど用意してはどうか。外国の方だけではない。

- ・人目が怖くて外出できない人たちのために、オンライン上の出会いの場があるとよい。家からでも参加できるイベント、あるいは集まれる場所をオンライン上で出来るとよい。

- ・役場に気軽に来てほしいし、会いに行く。開かれた役場を目指している。
- ・所管の人しか真剣に受け止めていないため、みんなが意識的に問題に向き合うことがよい。
- ・デジタル化を推進しているが若者には便利になるが、高齢者には不便になる。バランスを取りながら施策を決めていくことが良いと思う。
- ・若者が県外に出る理由は、遊びや娯楽がないことと就職先がないことだと思う。福井北インター周りに都市計画区域で難しいが、大きな企業を誘致して、若者の働く場を増やすことが良いと思う。
- ・農林の立場からは大企業誘致は難しいところ。そういった意味では、農業が儲かる農業になるとよい。農地はあるし、食糧危機のためにも農業の体制は残しておかなければならない。
- ・社会の変化に合わせてもっと臨機応変にやるべき。農地確保といっても疑似用地があったり、減反とか矛盾はあるが、農地のすみわけをしていけるように地主さんだけでなくみんながもっと真剣に考えてほしい。
- ・農地を持っているのは結構負担が大きい。特に最近は兼業農家が多く専業農家はほとんどいない。
- ・酒米がうまくいくためには、県の奨励品種で酒蔵さんと一緒にやっていく取り組みが必要では。

奥越地域

○勝山市

(1) 福井県の課題

- ・ふく育アプリが使いづらい（webアプリの為ログインが面倒）。どこで使えるか分かりやすく、ポイントも色んなところで出してほしい。
- ・ふく育さんが普及していない。誰が来るか分からないため敬遠している。どんな人が来るか、どんなサービスが受けられるか目に見える制度にするべき
- ・ふく育タクシーは高い。市によってはもっと安い配車サービスがある。まずは知ってもらうために初回利用がしやすい工夫が必要。
- ・移住サポーターが知られていない。移住サポーターの活用について市町の温度差が激しい。
- ・外国人観光客が少ない。宿泊施設などの受け入れ体制の整備が求められる。
- ・在宅看取りの体制も心配、今後人手が足りなくなって在宅医療介護が成り立たなくなる恐れがある。
- ・中部縦貫自動車道は事故が起きたら出られない。4車線化を求む。
- ・高齢者の有業率について、最近、求職者に高齢者が多い状況。理由はよく分からないが、「物価高騰」で、年金ではやっていけないという声を聞く。また、若手の人材が確保できないから高齢者を雇用するため高齢者の有業率が上がっていると思う。県として、企業向けに高齢者の活用を促すような説明会を開催してほしい。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・今後人口減は抑えられない。人口が減ることを念頭に置いた政策を考えるべき。
- ・「ふく育県」でとんがるのは良いと思うがどこを支援するかが重要。子育て世帯への経済支援は×（東京など財源が豊富なところに勝てない）それよりも、3世帯近居やケア（病児保育）など、東京にできない政策を全国にアピールしたほうが良い。
- ・若い女性がつながることをもっと応援してもいいのではないか。
- ・今後外国人労働者のトレンドはベトナムからインドネシアになっていくだろう。インドネシアはイスラム教だから、イスラムを受け入れるビジョン（礼拝、ハラール料理など）をもった方が良い。
- ・大学で都会に出て、帰ってくる子が少ない。やはり子どものときから福井に帰ったほうが良いという教育が必要かと思う
- ・高齢者の有業率について、高いからいいのか、理由がよく分からないのでより深掘していく方が良い。
- ・人手不足と言われている運転手、看護師についてOB、OGが活躍できると思うが、思うように進まない、何が障害なのか調べてみたほうが良いと思う。
- ・農業について福井でしか作れないものを考案してほしい。どこでも作れると、早く輸送したものの勝ちになる。沖縄のアセロラなんかは賞味期限が短いため、現地でしか食べられない。好きな人はそのために沖縄に行ったりする。
- ・デジタル人材がどんどん海外に流出している。地域のシステム屋をもっと大事に活用してほしい。
- ・男性の育児参加が重要、男性の育児休業率はあったが、3日だけだったり（その3日間もパチンコ行っていただけだったり）意味がない。男性育休の取得日数を増やすようにするべき。
- ・世界的に脱炭素の取組が広がっているが、中小企業だと対応が難しいところもある。そのような取り組みを支援する制度を設けてほしい。
- ・令和7年4月からの新しい育休制度や県がやっている男性育休の奨励金制度などもっと周知を徹底していくべき。

○大野市

(1) 福井県の課題

- ・同世代（20代）に福井に戻りたい人が多いが、働く場所に不安で戻れない人が多い。
- ・急激な人口減少、少子高齢化、過疎化が大きな課題。市民の力が衰えているのが現状。県や市の行政の力で温かい手を差し伸べてほしい。
- ・耕作放棄地について記載するべき。
- ・命を守ることを第一に考えるべき。
- ・一時停止など、交通マナーを守るよう周知すべき。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・何か新しいこと、楽しいことがあるとよい。
- ・子どもたちが真剣に取り組める部活動やクラブ活動などが地域、学校にあるとよい。
- ・どんどん次の世代が入ってきて、地域を盛り上げるということが続いていくとよい。
- ・20代、30代の若い世代が出て行っても戻ってくる手立てができるとうよい。
- ・人口が減り担い手が少なくなる中で、デジタル、AI、ロボットに期待する。
- ・東京、大阪から遊びに来るとリフレッシュし、満足して帰っていく。そういう人が暮らしを体験できる場所ができるとうよい。
- ・人口減少が大きな課題であるので、産業の育成や魅力ある企業の誘致をして、産業の城下町になっていくとうよい。
- ・UI ターンの促進が重要。人が見えないと力が出てこない。越前市には大きな会社があるが、越前市のようなことを福井県全体でできないか。
- ・役割の固定化や、地域の役員がいらないということをよく聞くが、若者や女性の参加によりうまく回っていくとうよい。
 - ・芸術の拠点は必要
 - ・就職して、子どもが育てられる企業があるとよい。
- ・大野、勝山、福井県の自然は素晴らしい。自然や暮らしは価値があるので、地道に、ここに価値をもっていれば、振り向いてくれる人、ここを求めて来る人がいると思っている。
- ・生を上げるためには子育てをしやすい環境、死亡を減らすためには医療機関の充実が大事。良い環境が整えば未来は明るい。
- ・地域づくりの拠点として公民館の役割に期待している。
- ・県外の人に大野が知られていないため大野のPRが必要
- ・野菜作りの得意な人と、小さな農業に携わる移住者をマッチングできるとよい。
- ・大野の暮らしを体感できる場所があるとよい。
- ・民間のイベントと行政のイベントの連携がもっとできないか。
- ・隣の勝山市と連携して観光PRなどできないか。

丹南地域

○鯖江市

(1) 福井県の課題

- ・大交流化というが、新幹線にしる道路にしる、鯖江市にはどこからも入ってこない。高速バスを鯖江駅にもつけてほしい。
- ・東京一極集中は大きな問題だと思う。
- ・盛り上げようなど言っても人は来ない。地方に住んでいたら税金が安くなるなど、具体的なことを考えるべき。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・利便性が高まるように鯖江市内の交通体系をしっかりと見直してほしい。

○越前市

(1) 福井県の課題

- ・女性のロールモデルが少ないなと感じている。そのことが都会で就職しようとする要因につながっていると思う。そういうロールモデルの姿勢を見たほうが口でいうよりか説得力がある。
- ・日本人と外国人の壁があるなと感じている。対等な立場になれるといいなと思う。
- ・元気がない事業者が多い印象。新幹線開通後、飲食店や小売店は開業後の効果の期待感をもっての方が多かったが、武生駅が開通しても、その恩恵を受けられていないという話も聞く。
- ・男女間賃金格差を是正する仕組みを県や市で考えてほしい。そうすれば女性の転出防止にもつながる。
- ・工房は、普段は解放していない。来てほしくない観光客とのミスマッチを懸念。
- ・福井はよくも悪くも人のことを気にする。10代のころはそれがめんどくさかったが、年を重ねるごとにそれが温かさに代わっていった。
- ・保育園での問題。もっと定員を増やしたいが、保育士不足のため、定員を増やせない現状。今後の待機児童が発生しないか懸念。人手不足だと、保育士の理想と現実のギャップを感じてやめてしまう人いるはず。外国人のお子さんについても、言葉のトラブルより、人手不足の問題。と感じる。
- ・先生の手が回らなくて保護者に丸投げになってしまってトラブルにつながった。悪循環。
- ・観光をやり始めたばかりの方で、外国人などの急なキャンセルによって心が折れ、観光の扉を閉じてしまう事例も多い。ミドルウェア的な方、間に入ってつなげる人が少ない、もっと必要。産業活性化のための観光を考えるならば間に入ってくれる人をいかに育てるかが重要。
- ・人口減は問題だとぼんやり分かるが、具体的に何がどれくらい悪くなるのか、道路が何m修繕できなくなるのかなど自分事のできる事例を示すとみんな認識しやすいと思う。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・地域に貢献したいなと思える意識づくりが若者が福井に残ることにつながると思う。
- ・衣食住が安定した形でないとこれから難しいと思う。しっかり地盤固めをしてほしい。
- ・今後の伝統工芸における後継者育成が課題。5～10年で第一線で働いている方が引退する見込み。ぜひ「工芸高校」を検討してほしい。

○越前町

(1) 福井県の課題

- ・県内の道路が石川と比べて明らかに遅れている。高速道路のようなものが他県では続々とできているのに、福井県は遅れをとっている。
- ・冠山峠道路などで交通の便が良くなったが、日帰りしやすくなったため、宿泊客が減ってしまっているのではないかと。観光の面では、越前町に落ちるお金が減っている気がする。
- ・学生のリターンは、県外での生活に慣れたら帰ってこないと思う。だから、県内の学生の方に、卒業後も県内にとどまってもらうような施策を打ったほうがよいと思う。
- ・観光地の老朽化と閉鎖が進行しているため、海岸沿いの観光地にも目を向けてほしい
- ・県にどういった仕事があるのか、どういう仕事ができるかを知れる機会が学生の間にはないので、もっと知れる機会があると良い。
- ・20代女性の転出理由として、他人からの干渉が多いのが嫌ということがひっかかる。若い人は色々と意見を言われるのが嫌なのかもしれないが、ご近所さんと話をするのは良いことだと思っている。
- ・県外が福井に観光にくるといっても通過点にしかかかっていない気がする（京都や金沢のついで）。宿泊してもらうには、観光地間の連携が必要と思っている。
- ・道が狭い。
- ・教育にお金がかかりすぎていることが出生率低下の一因
- ・観光について、駅からそれぞれ観光地が点在しているので、そこをつなぐツールが少ない。えちぜん武生駅からどう観光につながるのかわからない
- ・女性活躍推進について、福井県は共働き率が高い面もあるが、女性が子どもを預けてまで働くのが違和感。ふく育さんやふく育タクシーができたからといって使ってもらえるわけではないので、どうやったら使ってもらえる環境を整えるかということが大切と思う。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・二次交通も県で取り組んでもらえると地域の活力につながる
- ・地域の実情に応じた取り組みを県でもらえるとありがたい。
- ・年配の世代が聞く・受け入れる姿勢がないと、若い人はこないと思う。そういう啓蒙活動が必要だと思う。
- ・SNSで横の広がりはあるが、田舎では先輩後輩の縦のつながりが強いので、それをうまく利用すると良いのかなと思う（人材発掘に繋げることができる）。
- ・婚活事業がどこまで効果があるのかよくわからない。若者と地域のつながりを強化することで、将来的に戻ってきやすくすることが重要と考えている。
- ・県外から来る人にシェアハウスを提供すると良いかな？と思った。格安なスペース。
- ・福井県版キツザニアのような職業体験施設ができると良いなと思う。
- ・大学生とか就職目前の人ではなくて、生まれてから育つ段階の人に仕事の良さをアプローチをしたほうがよいのでは？

○池田町

(1) 福井県の課題

- ・自分さえよければいいという感覚を持っている人が多いと感じる。池田町外から来られる人もいる中で、マナーが良くないと思う。ルールや約束ごとを徹底して守ってもらう方法を考えていかないといけない。
- ・精神的にも身体的にも支援が必要な方がすごく増えていると感じる。SNSによる誹謗中傷により社会がギクシャクして精神的に病んでいる人が増えている。そういった方を支える立場の方が圧倒的に少ない。個人に介入するのは難しい時代ではあるが、地域のつながりを軸に、あえて介入して見守っていくなど、町民のつながりを深めていきたいと仕事をしていて感じるところ。
- ・交通体系は、池田町だけでなく福井県全体としても重要な問題。池田町がバスを運行しているが、自由に行きたいところに行けるかという点では心配している。
- ・年齢層が上がっていくと土地が荒れてしまう。県もある程度真剣に考えてもらう必要がある。
- ・地域行事や奉仕作業についても現在はうまく回っているが、高齢化していくと現在のような豊かな農村を維持できない。何か工夫などが必要。
- ・林業は停滞しているように思う。山は外から見ると緑がいっぱいで表面はいいが、一旦、山に入ってみると日が当たらず枯れているところなど手入れが十分にされていない。原因に木材が安いということがある。水を蓄える力がなくなり、雨が降れば山肌が崩壊してしまうこともあり、緊急を要する案件だと思う。
- ・デジタル人材の不足も深刻な問題だと思う。
- ・地域ごとに人口の奪い合い。地域の力をどう発揮させていくかが大事。
- ・畑はほぼ作物が作れない状態。収穫の時期になると動物にとられる。
- ・もっと気軽に話をしたいと思う。
- ・我が家は国道417号が通る地域にあり、たくさんの方が出入りすると賑わいを感じるが、つらい部分もある。
- ・国道417号沿いでは車が多く通るので、ゴミ出しを高齢者には頼めない。こどもも家の裏で遊びましようということになる。そういったことも含めて安全・安心を考えてもらいたい。
- ・女性は男性と比べて自由や楽しさを求めて都会へ転出するという、まとめの一文が気になった。・男性が多少は家事を手伝うようになっているようだが、女性はゆとりができたとは感じていない。女性がゆとりを感じる政策があるといい。ふく育タクシーやふく育さんなど、様々なサポートをされているのもっと浸透するとよい。
- ・人口減少は非常に気になっている。こどもは養育費や教育費が必要で、こどもが邪魔になると感じる人もいる。こどもたちは、そんな大人を見て、結婚せず、自分が稼いだお金で食べていこうとする。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・こどもの成長に合わせて親も一緒に成長していけるということを手早く伝えて、

子育てのイメージを変えていけるとよい。

- ・大学進学で県外に行った人のうち、福井県に戻ってくる人と戻らない人で、どのような違いがあったのかを分析すると新たな解決策が見いだせるかもしれない。
- ・人口が減っていく中で今いる人をいかに大事にするかだと思う。
- ・農業者の方など除雪車の免許を持っている方が多くいるので、そういった方に給料を渡して除雪をしてもらうという仕組みを県で考えてもらえないかと思う。
 - ・2次交通などの整備もして、きちんと暮らせることが大事。
 - ・合理的に廃止していくのではなく、町民の暮らしを見てほしい。
 - ・自分たちが住んでいる地域の自慢や誇りを持ってもらうことが大事。 転出者に戻ってきてもらうにも、地元への愛着が政策の根本にあるかと思う。
 - ・農業でも機械化が進んでいるが、どうしても人のつながりがなくなり、地域力がなくなってしまう。 福井らしい田舎の良さは、なくしてはいけないと思う。
 - ・新幹線が開業し、関東圏などから多くの人 coming というデータがあったが、池田町は中京圏が多い。 池田町としては中京圏に目を向けた政策が大事になる。 県にも後押ししてほしい。
 - ・長期ビジョンにある「とんがろう、ふくい」は素晴らしい。 ワンパークフェスはふくいエンタメ計画で一番わかりやすい成功事例。 今後も続けてほしい。
 - ・安全の福井、安心の福井は大事。 人間が人間らしくいられることが保証されない限り、 どんなに経済的に豊かになろうと 幸せを感じない。
 - ・転出した人に、転出先の心配事と福井県の良いところを比較して、福井県の長所が上回れば、戻ってきてくれたりしないのかなと思う。
 - ・人口減少についても専門の方でなく、全く関係のない人に意見を聞くと新しいアイデアが生まれるかもしれない。「とんがろう、ふくい」というコンセプトはとても好き。
 - ・その地域に住んでいる人が自分の住んでいるところを伝えることが大事だと思う。
 - ・都会に行く人は出ていくし、戻ってくる人は帰ってくる。 無理なことをしなくても、池田らしいことをしていればよいと思う。 それで地域が盛り上がれば人も増えていくと思う。
- ・こどものころの、自然に触れるとか、楽しいこととか、そういった経験が大事。 こどもが楽しめる企画があるといい。
- ・農業をしているが後継者が減っていると感じる。 後継者の育成は重要だと思う。

○南越前町

(1) 福井県の課題

- ・若い世代が定着しにくいことに加え、希望する就職先がない。
- ・自分の会社は社員ファーストで考えていると経営者が思っている、社員はそうのように感じていないというギャップがある。
- ・男性が多い会社では、育休を取るように声をかけても遠慮して取れない。
- ・地域の繋がりが弱くなってきている。
- ・結婚相談員によるマッチングは、若い人の考えをしっかりと理解していない。

- ・男性社会、もしくは女性社会の中で異性が活躍するということは難しい。
- ・地元にしっかりとした給与水準で働ける場が必要
- ・デジタル化やコロナ禍により人と人との繋がりがだんだん薄くなっている。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・事業承継の意向を支援にうまく導けるとよい。
- ・子どもを増やすために結婚応援が重要
- ・移民の受け入れがどうしても必要になってくる。
- ・結婚年齢が上がっていることもあり、管理職層の女性が子育てをする割合が増えているため、ベビーシッターなどのサービスの拡充や、サービスを利用することに対する意識、アンコンシャス・バイアスの改善が必要
- ・企業の人事ではなく、子育てをしている世代の社員の声を聞き取ってほしい。
- ・男性は退職後、家の中に閉じこもってしまうため、地域で交流できる場作りが大事
- ・電車のタッチパネルなど、技術革新が高齢者にとっては難しい。「日本で一番高齢者にも優しい技術革新」を進めてほしい。
- ・使わない公共施設を高齢者や若者に開放するなど、有効活用するべき。

嶺南地域

○敦賀市

(1) 福井県の課題

- ・商店街について、空き店舗が多数ある。可能であれば県外の方に来てほしいと考えているが、どうやって人を集めるか、情報発信に課題がある。
- ・神楽町商店街はもともと地域の生活拠点であったが、新幹線開業もあり、観光と生活拠点の半々にして行ければと思う。店が埋まっても客が増えないとうまく回らないので、市民人口の増加が必要だと思う。
- ・商店街は、昔は住みながら店舗を運営する形式が一般的であったが、最近では賃貸のみで店舗運営をする人が増えており、回覧板などの情報伝達がうまく機能せず、ルールだ周知されない。
- ・駅前の商店街は、かつて住みながら店舗を運営していたので、お店を貸そうと思っても、実際にはその所有者が現在も店舗の奥で済んでいるなど、店舗のみの貸し出しが難しい。儲かる確信が得られるわけではないのに、建物が老朽化しているのも課題。
- ・商店街の営業日時が店によって異なっており、訪れる人から見ると寂しい印象。商店街の稼働状況などを詳細に調査するべき。
- ・こちらが良いと思っていることと、観光客が求めていることのギャップを埋めるのが難しい。
- ・車で訪れる観光客が増えているので、福井市のように県道に地下駐車場があるとよい。
- ・新幹線開業により観光産業で地域経済を回そうと力を入れてきたが、従来地場産業がなく、原子力に依存してきた。基盤がない中で新たな産業を生み出すのが難し

い。

- ・子どもが減っているとよく言われるが、そもそも親世代が減り、結婚件数が減り、持てる子どもの数が減っている。女性にとって、結婚、出産してもそのまま働けるという点をPRすることが効果大きいと思う。

- ・女性たちは、家事も子育ても仕事も全部やっていて手一杯。お盆でも沢山親戚が集まっている中で、女性ばかり忙しい。価値観に係る点はなかなか数値に出てこないかもしれないが、そのような足元の部分を自分たちが変えていかないといけない。仮に進学などで若者が敦賀を出るとしても、良いイメージで出て行ってほしいと思う。

- ・結婚について、現在では外国人、障がい者の結婚ニーズもあり、そういう方を含め、敦賀で結婚し、子どもを産み、生活し、幸せを築いていける社会になればと思う。

- ・敦賀において、頑張ってくれる方とフリーライダーの差をととても感じる。新幹線開業というひとつのきっかけがある今、もっと頑張ろうという機運を醸成し、マインドを変えられればと思う。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・取り組みのスピード感、官民連携が重要。

- ・リターン増加には、社会体験などを通じて地元を知ってもらい、純粋な子どもうちから、こんな会社に行ってみたいという気持ちを育てていくのが重要。

- ・現在、新幹線開業、高速道路の整備、湾口の拡大により高速交通物流網が整備されて行っている。これは敦賀の大きな魅力の一つだと思うので、活用して敦賀を拠点に物流・人が動くような地域づくりをすると良いと思う。

- ・長らく原子力による好循環な時代が続き、それに甘えてきた。今後は先を見据え、持続可能な形にしていかなければと思う。原子力政策も大きな課題である。エネルギー関係の支援計画を進めれば、関係企業・研究機関の誘致など可能性は広がるので、先の長い話ではあるが、民間でも力を入れて取り組んでまいりたい。

○若狭町

(1) 福井県の課題

- ・自治会について、高齢化が進行しており、総会の開催も困難。年金生活者がほとんどのため、敬老会の在り方、農作業などの事業や予算の見直しを求める声がある。新規参入者が入りづらいこともあり、皆を巻き込んでやっていけないと存続は難しい。

- ・草刈りは機械で置き換え可能だが、泥上げはとてもできない。集落の景観管理が懸念。

- ・学校の統廃合や、人口減少社会のなかでの持続可能な集落の未来像について、できれば町全体で前向きにとらえて話し合いたい。

- ・持続可能なボランティア活動について、行政にも協力してほしい。

- ・北陸新幹線開業で訪れる人は増えているが、民宿の後継者不足が課題。

- ・原子力発電の各種問題について、嶺南だけでなく県民全体の問題として、万が

一の不安を抱えている我々の気持ちを共有してほしい。

- ・従来の集落機能が薄れていることが問題。現在 10 パーセントか 15 パーセント残っている小さい農家、多様な担い手の農家をなるべく継続をさせていく必要がある。小さい農家は体が動かなくなったら、高齢化したら離農が進む。小さい農家の存続のために農業機械更新の時に支援するなどの対策が必要。

- ・高齢化も含めて空き家が増えており、空き家の処分は本来所有者がすることになっているが、駆逐するのを待つ状態の家が何件かある。

- ・出生数が減っており、広い場所に子どもが散らばっているため、同じ年の子ども同士や、子育て世代が会う機会が減っている。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・外国人労働者について、災害時の避難方法を知っているのか心配。地域活動に参加していただくことも必要。

- ・地域の未来像としては、若者が希望する仕事を得て生き生きと働き収入が安定して得られ、子育てができ、子供が増えて、高齢者はボランティアやアルバイトで生き甲斐を見つけ、健康長寿を目指す社会になっていけばと思う。

- ・地域でもっと女性が活躍できるようにお願いしたい。町内全ての役員に、働く女性をつけるなど、行政からの提案があると良い。

- ・人口が減っているが、現在この地域にいる人でなんとかできないかと考える。AI や IoT、ICT などのデジタル技術に頼ることが必要だと思う。移動も自動運転が進んでおり、近い将来、無人で全て自動化で移動もできるのではと思う。

- ・将来に対する見通しがある程度あるような働く場所や、テレワークの増加、公園や遊び場などの子育て環境・場所に加え、周りの人の存在に対する安心感で、高齢になってもずっと安心していられるようなまちでいられると思う。

- ・まちの小ささという強みを生かしながら、細やかなところにも手が届く街を大切にしたい。

- ・多様性は今の社会のキーワード。マイノリティのみならず、年齢・性別・身体的特徴・国籍・社会的地位など、様々な立場で異なる人がたくさんいる中で、その居場所として求められていることが増え、個別が細分化されることで、違う立場の人に気がつきにくいと感じる。

- ・地元への愛着教育について、効果がわからない、見えにくい、続けていくことも大事。

- ・若い時は別の発展した町で仕事をし、40代、50代 タイミングになって戻ってきたいっていう方が多いので、こんな仕事があるよというのを PR し、当たり前になっている自然の良さに気づいてもらえるような PR 方法を考えていかねばならないのかなと思う。

○小浜市

(1) 福井県の課題

- ・高齢者に跡継ぎがおらず、空き家が増加している。

- ・人口減少で若い方に 焦点を当てることも大事だと思うが、小浜市にはもう遅い。

- ・アイアイバスもバス停が遠く、そこまで歩けない 高齢者は利用できない。
- ・地域のために協力しあうという価値観・地域のつながりがなくなりつつある。
- ・子どもが少なく、独身・離婚が多い。地域の温かい見守りが減っている。
- ・商店街も店や建物が減っている。
- ・「福井らしさ」と書かれているが、県・市役所の職員が思う福井らしさって何かがわからない。動く側としても動きにくい。
- ・公共交通機関が減り、運転する人がいなくなった。家から公共交通機関までを支えるような小さいサービスが必要。
- ・地域で動いている方もいるが、キラキラして見えるのは嶺北ばかり。IC カードでの交通の便が良くなっているのも福井駅が中心。
- ・ハローワークにて、若い方の相談が減っている。ハローワーク利用者の年齢層は上がっている一方で、会社からは若い方が欲しいといわれ、ミスマッチが起こっている。県外に進学する方多いが、福井に戻ってきたいと思えるような会社、魅力ある企業、住みやすい環境が総合的にあって、それを先生や親から伝えていけると良い。
- ・求職者がホワイトな環境を望む一方で、企業側は人手不足によりなかなか条件が厳しいところが多いのが現状。できるだけ企業には技術も取り入れてもらいつつ WLB を重視してもらえよう話しているが、なかなか難しい。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・高齢者が高齢者を支えておりいつまでもつか心配。高齢者が安心できる政策をしてほしい。
- ・県内移動の状況に関するデータ、若い世代・子供たちのリアルな声を拾い上げ、ビジョンへ反映できると良い。
- ・新技術の導入について、新幹線駅中心で考えてしまいがち。本来新技術は村部など人手が少なく、高齢化が進むところにこそ導入されることでより力を発揮する。
- ・福井県全体に新技術を行き渡らせるというよりは地域による色分けが必要。それにより不公平性、格差の解消になる。
- ・小浜の強み・良いところのご飯が美味しいところ。美味しい食を支えているのは一次産業だが、後継者が少なくなっている。今後引き継いでいけるかが心配。そこを補うのが技術革新だが、デジタル人材がいなければうまく使いこなせないので、並行して人材育成もやっていきたい。
- ・人口減少感じている。婚活支援がとても大事だと思う。まずはきっかけから広がり、雇用も生まれ産業も広がる。包括支援を首都圏とも一緒に今後も頑張っていきたい。
- ・若者が就職したい企業を誘致するのも難しいので、例えば福井を テレワークの聖地みたいにPRし、戻ってきたいと思った時、田舎で働きたいと思った時に福井でこんなことができるというのも一つの手段かと思う。
- ・今の若者は、就職するうえで一番重視するのが働く環境。地方の働き方は若者が求めているものと違うという偏見があるので、そこに対するPRが必要。
- ・もっとクリエイティブな仕事・魅力ある仕事があれば戻ってくると思う。

・創業のチャレンジ・次世代の若い人 をメインにした施策もよいが、60 定年になってから新たな 仕事を始めるなど、そういうチャレンジを応援したら高齢者が元気にしているのがわかり、帰ってくる人にも良いアピールになるのでは。

○おおい町

(1) 福井県の課題

- ・嶺北と嶺南のつながりが薄いとを感じる。コロナのときにやっていた嶺北・嶺南応援割などがあると良い。
- ・水産物のブランド化があまり進んでいない。なんといってもおおい町の知名度がない。
- ・耕作放棄地が増えてきている。県道の草が歩道まで伸びており気になる。川に生活ごみを捨てる人もいる。花がたくさん咲いていたらきれいな町に見える。
- ・嶺北と嶺南の格差がある。嶺北には恐竜博物館などいろいろな施設ができています。嶺南でも美術館の巡回展やハーモニーホールでやっているコンサートなど開いてほしい。
- ・県外から人が来ているが、車を持っていない人は行きにくい。時間帯によっては1時間に1本しかバスがない。公共交通を充実させてほしい。
- ・文化、伝統を残していきたい。人口が減っていくと祭りや行事など同じようなことをやっていくことが難しい。続けていく上で技術や予算など行政の支援が必要。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・ないもの、弱みを解決しようとしがち。弱いところを育てるのは難しい。子育てが充実しているなど強みを積極的に発信していくと良い。
- ・子育てには上司や会社の理解が必要。女性の心が折れないようにサポートをしてほしい
- ・三流の都会を目指すなら一流の田舎を目指した方が良い。地元の良いところを見つけて、それで良しとしていくマインドが大事。
- ・福井の良いところはコンパクトなところ。いろんな人とつながりやすい。
- ・山の仕事は 10年でワンスパン。将来を楽しむことが大事。長期ビジョンをもっと具体的に将来が想像できるようにすると良い。
- ・空き家バンクに登録してある家は古く住める状態のものでない。移住者を増やすためにも、空き家をリノベーションして使えるようにすると良い。
- ・福井は福祉や子育てが充実している。そこをしっかりと PR することが大事。
- ・福井県には価値の高い文化財がたくさんある。現在あるものの価値を再認識することが大事。子どもが他の地域に行ったときに自慢できるように育てたい。
- ・川は地域の財産である。子どもたちがふるさとの原体験をすることや川の保全が大事。
- ・ターンで帰ってくる人を増やすため、魅力的な仕事を増やすことが大事。都会で楽しいを覚えると地元に戻る選択肢はなくなる。都会に居ても地元とつながりをもてるイベントなどがあると良い。

○高浜町

(1) 福井県の課題

- ・嶺北と嶺南の医療格差を感じている。嶺南地域にも安心して出産できるような大病院が必要。
- ・交通インフラの整備も重要であり、舞若道の早期4車線化を求める。
- ・人手不足なうえに男性も家事をする、育児休業をとれと言われてどんどん人手がとられていくことに危機感を感じている。
- ・農業について、嶺北は面積が大きく大規模なものが多いが、嶺南は面積が小さいため、補助金なども嶺北の農家がほとんどとってってしまう。
- ・嶺南でとれた農産物を福井市に送る配送料を負担してくれる制度があるが、高浜が一番端のため、出荷する時間が早すぎたり、国道のところまで持っていく必要があったりと使いにくい制度であり、見直してほしい。
- ・最近子育てがしにくくなった。保育士の働き方改革が進んだため、預けにくい状況。また、JRも強風ですぐ止まるようになり、電車が止まると学校から迎えに来てくださいと連絡が来る。フルタイムで仕事のため、そのような対応が難しい。
- ・地域の団体の担い手がいない。維持管理が大変になってくると元々団体に入っていた方も「楽しくない・面倒くさい」と言って抜けて行ってしまう。コロナ禍で一旦ストップしてしまったため、地域のかかわりが希薄になっていると感じる。
- ・女性活躍について、福井県は共働き率1位、3世代同居2位、ゆとり時間は男性が増えて、女性は減っていた。なのに幸福度1位というのは、女性が不利益を被ることで幸福度が維持されているのではないか。
- ・若い女性は他人に干渉される、多様な価値観が受け入れられないから出ていくという状況を何とかしなければならない。
- ・長い歴史の中で培ってきた基盤が揺らいでいる。基盤の地域コミュニティをもう少しよくする施策を広げてほしい。
- ・福井県の認知度が低い。福井の魅力を知ってもらえるような情報発信が必要。
- ・人口を増やすためには暮らしと産業が大切だと思う。長期ビジョンをみると産業面が弱いと感じる。
- ・高浜は昔から海の街で海水浴客など多かったが、昨今レジャーも多様化し、猛暑が続く外出禁止とまで言われているので、海水浴客も減ってきている。
- ・無料なんでしょ」と言っていたが、ある意味それくらい尖ったほうが面白いのかと思う。近年、情報化や通信が重要になってきているため、データセンターとか、そのような基地にしてもいいかもしれない。

(2) 望ましい将来像・将来像の実現のために必要なこと

- ・行政としても若者の出会いをもっと応援してほしい
- ・福井県は若者が自由にやれると感じ、大阪から高浜に移住してきた。そういうところをもっと押し出してはどうか。
- ・移住してきて職探しが難しかった。県が東京の大手企業と連携して、大手企業で働きながら福井で住めるような取り組みをしたらどうか。
- ・この町に住む充実感・誇りといった概念をより形にしていくことが重要と感じる。

- ・高浜町単独で事業を継続していくことが困難になってきている。舞鶴やおおい町といった広域で連携することに対して補助などを行ってほしい。

4 次世代応援意見交換会における主な意見

○未婚女性（20代～30代前半）

（福井にいる（帰ってきた）理由）

- ・都会へのあこがれはあったが、地域に受け入れてもらえていることで、地元に残るのもよいと思った。
- ・今のまま地元に残るのと、都会に出るのを比較して、精神衛生上、残った方がよいと判断した。
- ・大学院で建築やまちづくりを学ぶ過程で地方で暮らすことに興味を持ち始めた。顔が見える関係性の環境で働いてみたいと思い、縁あって福井に移住した。小さいけれど、1個1個変わり始めている体感が面白い。

（今後のキャリアプランについて）

- ・（非正規）20代前半のうちはいいいけど、20代後半の時に、このままでいいとは思っていない。迷いもある。起業も視野に入れたり、新たな経験値を得るためにも就職も考えている。現在の働き方のスタイルを続けるのは、長くても2,3年かなと思っている。

（結婚について）

- ・両親の仲が良く、憧れがある。出産を考えると、30歳までには結婚したいと思っている。
- ・親からも結婚を勧められており、この人どう？と相手を勧められたりもするが、彼氏を紹介すると賛成してもらえず、ストレスになっている。
- ・現在恋人がおり、結婚するならこの人だと思っているが、相手は県外に住んでいて、仕事もある。結婚に、「相手の仕事の兼ね合い」はどうしても発生すると思う。
- ・自由でいたい。結婚は縛られるイメージ。結婚にメリットを感じていない。周りの子供のいる方を見ていて結婚は大変そうだと思った。
- ・自分の両親があまり仲が良くなかったので、結婚すると大変なことになるんじゃないかと思い、小さい時からそんなに結婚したいと思っていなかった。
- ・若い時は、結婚して子供を産むのが当たり前だと思ってたけど、大人になってみたら、自分の中身が思ったよりも子供のままだということに気付いた。自分を差し置いて、自分の子供に時間や愛情を注ぐイメージがあまり湧かない。
- ・（県外出身者）初対面のレベルの人に、「福井の人と結婚しなよ」とか「今は独身なの？」みたいに聞かれるのは、ちょっとカルチャーショックかも。

（子育てのイメージ）

- ・ライフステージが1つ上がるイメージ。大変だけどやってみたいと思う。
- ・自分よりちょっと上の世代が今タイムリーに子育てしているのを見ると、子供と一

緒に成長している姿や、「家族」というものが、素直に良いなと思う。

- ・若いうちでないと産むのも育てるのも体力的に大変そう
- ・当事者にならないと情報が入ってこない。
- ・親になることも、そこまで責任を持てるとは思えない。子どもがいたらいたで、やりがいはあるんだろうなと思う。

(仕事と家庭の両立について)

- ・全国を転勤で回るのが夢。いろんな地域のことを知りたい。
- ・理想はパートナーにしっかり稼いでもらって、自分は家のことをして相手に尽くしたい。ただ、生活水準を下げたくない、というのが最優先で、必要であれば自分も必要なだけ働く。

(仕事(正規・非正規)について)

- ・(非正規)今は一人暮らしなので、自分の生活費だけ稼げれば良く、収入の不安というのはいらない。ただ、賞与がある正社員の働き方と比べると、余裕はやはり生まれづらい。
- ・非正規だと、賞与も基本的になくて、育休などもないと思うので、自分が働けなくなったら収入がゼロになる不安はある。

○未婚女性(30代)

(福井にいる(帰ってきた)理由)

- ・県外に住んでいたこともあるが、親孝行をしたくて福井に帰ってきた。
- ・福井にいと友達にたくさん会えるから。親の体調もあって実家に近いところに住んでいる。
- ・自分が学んだ事を福井県に還元したいという思いで福井県に帰ってきた。

(キャリアプラン)

- ・現職場にずっと勤めているつもりはない。今は生活をするための手段として仕事をしている。
- ・「働きがい」と「生きがい」が一緒の人とそうでない人がいると感じた。自分是一緒になるのが理想。

(結婚について)

- ・周りを見ていると、子どもがいることでコミュニティが広がっているように感じる。子どももかわいいし、うらやましいから結婚はしたい。
- ・高校生の時に作ったライフプランでは22歳で子どもを産む予定になっていたが、結婚もせず、30代半ばになって結婚願望がなくなった。
- ・結婚しなくても、職場の仲間、友人などに支えられて生きている感覚がある。あえて結婚しなくても望む生き方ができている。
- ・独身が嫌だから結婚、ではなく、独身も楽しいし、楽しみたい。今は自分がしたいことに一杯。一区切りついたら結婚を考えようかと思う。

- ・独身こそ頑張っているという感覚もある。子育て世帯を支えているのは独身者。お子さんの体調や行事で早く帰ることがあるが、独身者が支えている。独身もプライベートはある。
- ・結婚しても別れるときは別れるし、結婚しなくても別れない人もいるし、(結婚しているかしていないかは)あまり変わらないように感じる。結婚するとたくさん手続きを取らないといけないし、法的な婚姻という形をとるメリットがあまりなく感じる。
- ・結婚がいいよと周りから聞いたことがあまりない。(その割に)結婚しないのかとやたら聞いてくる。
- ・結婚したいという気持ちが、自分の気持ちなのか世間の気持ちなのかが分からなくなる時がある。
- ・親から「お婿さんをもらいなさい」と言われていたが、自分の中では結婚=相手方の家に嫁いでいくというイメージだったので、その意向のすれ違いみたいなものがあった。
- ・地域の年配の人は、「まだ結婚しないの」とか「もう子供産めんくなってまうぞ」とか言うてる。地域の集まりの度に毎回、彼氏は出来たのかなど聞いてくるのは正直うっとうしい。でも別に自分は結婚願望がないので、そんなに意に介さずに済んでいると思う。

(仕事(正規・非正規)について)

- ・持ち帰りの仕事も多く、しんどいが、正規と非正規では収入が違いすぎる。
- ・正規・非正規というよりは、業種や会社によって収入が異なるイメージ。ベンチャー企業に勤めたこともあるが、ベンチャー企業は業績による給料の波が大きい。
- ・経済が低迷している時代を生きてきて、お給料などに希望が持てない。ボーナスとかも信じていない。生活のゆとり、生きがいを置いて仕事を優先したくなるほどボーナスがたくさんもらえるわけでもない。
- ・非正規だが、現在一人暮らしなので、一人分の生活費を稼げばいいという意味では、収入の不安はそんなにないが、なにかあって自分が働けなくなったらという不安はある。

(恋愛について)

- ・最近の若者は出会いが少ないという言い方をよく聞くが、個人的には出会いがない人はいないと思う。自分が(交際に向けて)動いているかどうかの違いだと思う。
- ・漠然と婚活イベント、とかではなく、趣味などテーマが決まったイベントので出会う人の方が、好みに近い人が集まる分、可能性があると思う。

○既婚女性(正規雇用)

(現在福井に住んでいる経緯)

- ・福井県以外を見てみたくて大学で県外に出た。最初の就職時、自分のスキルやニー

ズに合う仕事があが福井にはないと思い、県外で就職した（航空業界）。帰ってきてみると、福井県にも面白い人がたくさんいると思った。戻ってきてから福井県が好きになった。

- ・もともとアナウンサー志望で、福井弁を捨てるために東京に行った。メディア系をいろいろ受けたが、受からず福井に帰り、公務員に。大人になったら幸せに感じることもあるが、お米がおいしいとか空気がおいしいとか、学生に頑張っただけでも理解しづらい良さかもしれない。
- ・大学時代に、福井県の知名度は低いと思った。知り合いに福井県の良さを聞かれ、答えようと福井県のことを調べるうちにシビックプライドが生まれたと思う。
- ・ずっと福井県に住んでいる。一回も県外に出たいと思ったことがない。地域のつながりの強さは昔はダサいと思っていた。ここ5年くらいで気持ちが変わった。
- ・（県外出身者）夫も自分も県外出身で、福井大学在学中に出会い、結婚。夫が福井を好きで、福井に住むことに。大学でできた友達との関係が居心地が良かったらしい。福井県は住みやすいと思う。職場の環境が良さと、車さえあればどこにでも行けるところがよい。
- ・福井県を出たいと思ったことがない。都会は怖い。電車に乗れない。

（福井への要望等）

- ・子育てしやすいと聞くけど、どこが？という感じ。会社に休みを言いづらい。病児保育もすぐいっぱいになる。子ども4人いるので、結構前から保育園の送迎をしているが、ここ10年くらいで、お父さんのお迎えが増えた。自分の夫の帰りが遅いからうらやましい。
- ・2人目生まれると、1人目の保育の迎えの時間が早くなると聞いた。夜ご飯の準備とか家事を考えると、迎えの時間が早くなるのは困る。
- ・子どもがいて、仕事と両立はやっぱりまだまだ辛い。子どもをあずける（一時預かり等？）費用がやはり高い。
- ・「ふく育さん」に子どもを見てもらって外出しようとしたら、両親が、知らない人に孫を見てもらうなら自分が見るといって結局「ふく育さん」を呼ばなかった。両親にもバイアスがかかっていると思うが、実際相手の顔が見えない、信頼関係がないところで「ふく育さん」は使いづらいと思う。本当は使いたい。
- ・社的にもいつ休むかわからない人を雇うとなると一歩引いてしまうのでは。子どもをいつでも預けられる環境になれば、会社も安心して雇用できると思う。
- ・子育て中の女性が多いから、お休みはお互い様感が強いと思う。加えて、職場に子どもを連れていくことができる。土曜とかに子どもを連れて出勤して仕事をして、平日の欠勤を欠勤扱いでなくしてくれるのもありがたい。
- ・会社に子育て環境を整えることに対する補助金があるといい。子どもが滞在できるスペースを作るとか。（託児所まではいかない。）急な休校の時に子どもを連れて行けるとか、運動会等の振替休日で子どもが平日休みの時とか。製造業はリモートがしづらく出社が必要な場面が多いので、テレワークで家にいるというよりも子どもと一緒に出社できる環境の方がありがたい。

- ・女性関係のがん検診は、自分も周りも誰もいかない。がん検診を受けるまでに休むのがハードル。子どもの用事のために一杯休んでいるので、自分の用事のためだけに休めない。女性活躍推進ということで、女性自身の健康についてもいろいろ考えてほしい。
- ・近所付き合いがあるかどうか両立のためには大きい要素。血縁がなくても助け合える関係性が大事。
- ・地域で世話を焼きたい人と世話を焼いてほしい人のマッチングがされるといい。
(どこに世話を焼きたい人がいるかわからない)

○既婚女性（非正規雇用）

（（県外出身者）現在福井に住んでいる経緯）

- ・夫が福井県出身で、夫が福井へ戻りたいといたので、仕方なしに福井へ。夫が長男だったということもあり、福井に移住することについてわがままを言いづらかった。
- ・結婚を機に移住。住み始めたら楽しく、東京帰りたとは思わなくなった。
- ・東京で働いているときに夫に出会い、結婚した。最初は福井に行くつもりなかったが、コロナ禍で考えが変わり、小休憩のような気持ちで福井へ。福井へは全然行きたくなく、どうしようもないので来た感じ。

（（非正規雇用について）仕事内容と選んだ経緯等）

- ・（県外出身者）移住後に就活をした。ネットで探したが、経験のある業種の仕事がなく、楽しそうだと感じた会社に正社員として入社したものの、人が合わずに体調を崩し、休職。やめる決心がついたところで現職の求人に出会い、働くことにした。
(最初の正社員としての就職について) いずれ子どもが欲しいため、貯金をしたかったこと、産休を取るなら就職してすぐというのはどうかという心理的負担もあり、少しでも早く正社員で働かねばと思っていた。
- ・（県外出身者）平日ずっと家にいるのは精神的につらいので、週3-4日の仕事を探したが、パチンコ屋、タクシー、飲食アルバイトの求人ばかりだった。今の仕事は仕事に見合った対価がもらえていて感じておらず、続ける気はない。
- ・（県内出身者）子を産んだ後1年ほど専業主婦をしていたが、知り合いの紹介で事務職へ。子どもがいるならパートがいいよねと会社に言われ、自身もそう思ったのでパートへ。いずれ正規に戻りたい気持ちもある一方、自由に働きたいとも思う。

（福井の印象）

- ・（県外出身者）同世代の働き方も多様で自由なところが良い。東京では劣等感を感じていたが、福井ではない。人間関係もいざこざしていない感じが楽。性別役割分担が、自身は楽と感じる。「女性」「若い」「移住者」という肩書で評価してもらえるので楽。
- ・（県外出身者）東京は、人は人、という感じで冷たさを感じつつ、居心地は良かった。福井移住後の最初の会社が閉鎖的で、より一層地元に戻りたくなった。休職中に

福井を好きになる努力をしようと思って行動し、好きなところも見つけた。世間狭いと思うこともあるが、楽しんでいる人もいるし、福井が頑張っていることも知っている。地元の友人が福井に来て喜んでくれると嬉しく思った。少しずつ福井人になっているのかも。

(収入面での不安)

- ・感じる。社会に出たいが、子どもができたとき、在宅の仕事がしたい。会社に属するのは向いていないので収入不安は自分で頑張るしかない。
- ・非正規の収入不安はあるが、正規で嫌なのは、時間の縛り。
- ・休んだ時の手当は何かならないか。現在小学生は1回500円だが、1か月500円とかにしてほしい。会社にも迷惑をかけていることが後ろめたい。昨年、子供3人が1人ずつインフルになり、3週間休んだことがあった。小さい企業では少ない人数で期日までに仕事を回すのが難しく、結局残業したり、手伝ってもらったりせざるを得ず申し訳なく思っている。。正規は責任があり、より休みにくいと思う。

○県外出身者（学生）

(福井での生活について)

- ・地域イベントボランティアに参加してみて、若者力、連携力がいいなと思った。
- ・車がないと生活しにくい。コミュニティは豊かと感じており、学生でも主体的に活動できる点は良い。
- ・最初に来た時にはあまりの田舎具合に絶望した。車を持ってからは生活の質が変わり、楽しもうと自分の気持ちを切り替えたら福井のいいところもたくさんわかってきた。
- ・電車に乗って出かけるようになってから田舎っぽさにはまって楽しくなってきた。

(将来に対する不安)

- ・今の（学生生活の）楽しさは将来の仕事に直結するものなのか不安。
- ・進路が不安。今学んでいる分野の仕事をずっとやっていくのか等。いろんなロールモデルを知りたい。親しか知らないと、選択肢がない。
- ・起業したいと思っているが、具体性がなく不安。
- ・やりたい仕事は明確なので、あまり不安はない。

(福井に残る可能性)

- ・将来望む環境や職業があれば福井に残るかもしれない。
- ・仕事でなくても、挑戦することが許される環境なら残りたい。
- ・地元で仲の良い友人が多く残っているので、地元に戻る気持ちが強い。
- ・周りの先輩を見ると、内定が出たところに行くという感じで、あまり地域にこだわりはないと思う。結局企業の良さ、めぐりあわせ次第。ローカルの良さは正直福井以外にもあると思う。

- ・出身の東京と、福井市が知らないので比較対象がなくわからない。田舎の良さはわかるけれど、それが福井の良さなのかわからない。

(学生としての生活の満足、不満)

- ・バスが不便。少ないし、来ないのかと思うほど遅れていることもあった。学生が週末集まる場所がない。
- ・地元には、駅前から商店街が伸びており、そこで地域の人との交流があり、間接的に地域に受け入れられている感覚があった。ここでは、地域の人と交流する場所がなくてさみしい。学生はお金もないので、ただの公園でいいから、学生が集まれる場所が欲しい。
- ・学生・若者のコミュニティを応援してほしい。

○東京に移住した女性

(東京に移住した理由等)

- ・狭い福井で、同じようなことを繰り返すことがつまらないと思っていた。色々な人がいるところで、色々な意見も聞きたいし、都会への憧れが強かった。
- ・大学生活を過ごした東京に慣れてしまったので、その生活を変えることができなかった。
- ・東京は交通網が発達しており、どこに行くにも、徒歩と公共交通機関で行けるから、その便利さがメリット。
- ・働きたい業種が東京などに集中しており、福井県内に選択肢が見つからなかった。
- ・一度福井県で就職したが、何年か働いてみて、仕事のスピード感などレベルの高いところで働きたくなり、東京で転職した。仕事で認められたいという承認欲求は強い。福井県に帰りたい気持ちもあるが、希望に叶う仕事がない。

(東京と福井のイメージについて)

- ・東京はみんな生き急いでいる感じがする。福井にしていると心のゆとりをもてる。
- ・東京は仕事に生きている人が多いが、福井は家庭が第一で、次に仕事というイメージ。成長したいというよりは、家庭で幸せを築くというイメージ。
- ・PRがもう少しほしい。東京で福井の話聞けたら嬉しいので、発信してほしいなと思う。福井は住んでいる人が幸せなので、そんなに発信しようとしていないのかなと感じている。
- ・福井県にいたら幸福だと分からないだろうなと思う。県外に出たからこそ、なにが幸せか分かった。心のゆとりがある。焦りがない。追い込まれていない。お金も、物価も違う。

(福井県の地域、集落について)

- ・新型コロナが流行し始めた時期くらいの、感染者の情報が伝わるスピードの速さに驚いた。
- ・子どものころはつながりの強さが嫌なこともあったが、大人になってみると、コミュニティの強さもいいと思う。

- ・東京の方が化粧なしの姿で出歩ける。福井県は自分は知らない人でも自分のことを知っている感じがあって、適当な格好で出歩けない。

○県外に移住した女性（追加調査）

（県外に移住した理由等）

- ・働きたいと思える会社がなかった。（広告事業、航空業界など）
- ・（看護師）就職のタイミングで県外に行った。福井が嫌だった訳ではないが、選択肢を広げるためにも東京の病院も見てそっちに決めたという感じ。
- ・大学進学タイミングで県外へ。高校のときは県外に出たい気持ちはなかったが、福井にいたいという気持ちも特になかった。友達が県外の大学を目指したりする中でもっと上を目指せるのでは？と思い県外にでた。
- ・大学で外に出たのは、親が外に出てほしくなさそうなのが嫌だったから。拘束感みたいなものが無理だった。このコミュニティから出たいという思いで県外へ。人生長いと思うと、1度出ても人生のどこかで福井に帰ってこれたらいいのかなと思った。

（福井との関わり方）

- ・県外で広がった縁で仕事ができる部分があるのでそこは残しつつ自分にできることがあるのならできたらうれしいと思ってる。
- ・家族もいるので福井に帰りたい気持ちはあるが、何かきっかけがないとなかなかという感じ。
- ・福井との関わりはピンときていない。帰らない理由は、これまでの水準、給料や待遇で働けるような仕事は福井にはないと思っているから。
- ・自分がやってきたことの水準を下げずに働ける環境があるならいいが、大企業との仕事を辞めるのは負けだと思っている。自分の価値が下がるならば福井に帰る選択肢はない。
- ・仮に離婚となれば福井に帰ってくる可能性はある。神奈川に住んでいるが、神奈川の支援が十分ではないと感じているため、1人で都会で子育ては厳しいという点で。
- ・福井にリターンするつもり。大学進学で上京してからずっと寂しさがある。これが続くのがしんどいし、仕事の大変さを知り、誰、どこに対して頑張りたいのか考えたときに福井のために頑張りたいという気持ちがでてきたが、東京で仕事をすると、同じぐらいの規模や、やりがいのある仕事を福井で見つけられるかの不安がある。

（福井県の魅力）

- ・何もないことで心が落ち着く。デトックスされる感覚がある。

○県外出身者（社会人）

（福井県に来た理由）

- ・福井県のイベントに参加した際、福井のもてなしに感動した。福井の方と結婚して

福井県に移り住んだが、福井と結婚した感じ。気を張らないでいい雰囲気がいい。
・ 都会を離れて田舎で暮らしたいと思っていた。田舎で暮らすなら、働く場所も地域との関わりが欲しくて、農家で働こうと探していた中で、福井県と縁があって移住した。

(福井の特徴)

- ・ 人の会いやすさ、近さが良い。
- ・ 福井は自然が多様で、日本の四季をしっかりと感じられる環境がいい。
- ・ 自分が頑張らなくても成り立つ生活感が良いと思った。都会は見栄を張りあって相手の人間性がわからない。福井は素でいられる感じが良い。
- ・ 手仕事から派生した製造業が発展してきたからか、県民性は実直で、冗談が通じないところがある。純粹すぎるせいで、トラブルになりかねないとは思っている。
- ・ 移住者としてはいい環境だと感じるが、福井出身者からすると、キャラを変えにくい地域ではあると思う。都会だと人が多すぎてキャラ変しやすい。福井県は保守的ではあって、考えは変わりづらい。
- ・ 前例にないことを嫌がる面が強い。あと匿名性がない部分が県内の人には辛いかもと思う。移住者は住民に認識してもらうこと、認めてもらうことがうれしいので特段気にならない。
- ・ ビジネスでも前例がないことは応援してもらいにくい。地域の行事に参加するなどして地域の方に信頼してもらおうと努力しているが、小規模でもスタートアップの支援をしてもらって、特に若者に対して、福井でも前例のないビジネスができるんだという前例を作るべき。
- ・ 福井では新しいものにはすぐお客さんが食いつくのに、新しいことを始めようとするとうまくいかないという矛盾がある。
- ・ 福井は圧倒的にクレームが少ない。良いも悪いも声が届かない。
- ・ 勤め仕事をしていた際、職場で改善すべきと感じることがあって、同僚に話をするともみんな共感してくれるが、声をあげる人がいなくて我慢している印象を受けた。どちらかというとは仕事はあくまで収入源という感じで、我慢してこなすみたいな考えの人が多いと感じた。
- ・ 手仕事などから派生した産業の中で、決まった仕事を黙々とこなすことを続けてきたメンタリティが根付いていると思う。
- ・ (新しい考え、古い考えの良し悪しではなく) いろんな考えの方をかき混ぜて、お互いの考えを受け入れあう仕組みを作るべき。長期ビジョンは良い考えがいっぱい書いてあるものの、届いてほしい人にこそ届いていない。

○副業・兼業者

(課題)

- ・ 福井県は幸福度日本一というが、どう幸福なのか。実感があまりない。
- ・ 主観の幸せとは何か最近悩んでいる。三世代同居は女性の幸福度を下げるという話を聞くし、シングルマザーは意外と幸福度高かったりする。何が幸せなのか、考えさせられる。

- ・興味のないことを知る機会がほしい。
- ・学生は親や先生など限られた相手から与えられた情報の中で将来の選択をしているため、興味のあるなしに関わらずいろんな情報が得られる仕組みが必要と感じる。
- ・興味のないことを知るには、偶発性（偶然の出会い）が重要。
- ・夢として、学校をつくりたいと思っているが、作り方が分からない。宿や学校など、行政の許認可のハードルがとても高く感じる。
- ・幼稚園でプログラミングを教える機会があり、幼稚園に行くと、子どもに言うことを聞いてもらうために少し圧を感じる接し方をしている先生がいて、それが園側では良い先生ととされている感じがした。こどもが大人数だとしかたないと思う。ひとりひとりに優しく声をかけようと思うと少人数でないと無理だと思う。
- ・社会人経験が少ない若者が福井県で起業するには経済的支援もそうだが、ノウハウの部分で伴走支援やコーチングがないとうまくいかないと思う。
- ・法人化を検討しているが、嶺南はコミュニティが少ない。セミナーの情報とかも分からない。
不安や悩みなど話せる場が欲しいなと思う。
- ・福井だと女性起業塾みたいな事業があるが、本当に信用できるものなのかと思ってしまう。より実績のある支援が望ましい。
- ・話を聞きに子どもを連れて市役所などに行っても、子どもがぐずると、しっかり話を聞けない。話を聞いているときは子どもを見てもらえる場所があると安心して話を聞けると思う。
- ・やりたいと思っていることに対して、どこの窓口に行けばいいのかわかりづらい。ちょっとした相談が出来る場所がほしい。事業についての壁打ちなど。事業がある程度固めてしっかり話せないダメなのでは？というイメージを感じる。気軽に相談に行ける環境が理想。
- ・これから起業します。みたいな方たちが集まって相談したり情報交換をする新規企業エリアみたいながあると良さそう。
- ・フリーランスになるという選択にもっとライトなイメージがつけば高校生のころから意識できると思う。学生の頃からそういう選択肢があることが当たり前であるといい。
- ・正社員だとキャリアアップがあるけど、フリーランスや起業はビジョンなど全部自分次第のため、ロールモデルがないことに不安を感じることもある。講演会とかではない、お話を聞ける場があるといい。

（女性特有の意見）

- ・独身時代に出来るだけのことをしたいという思いから東京に出て学んだり、コンペに挑戦したりしたが、結婚し、子どもが生まれてから、誰かの手を借りないと時間がとれなくなった。
- ・福井は共働きが多く、家事も自分がする。誰かに子どもをお願いしないといけな。自分の予定も許可をとって行く感じ。親が近くに住んでいるが、お願いしにくい部分もある。

- ・女性が何かしら我慢したり家族の許可をとらないと出れない感じがある。男性は自由、女性は了承を得るみたいな感覚がある。
- ・子どもからして、父親が居なくても気にならないけど母親は居てほしいというのがあるみたい。自分がいろいろ仕事をしていると離れてしまうんじゃないかと感じることがあるようで、女性がどんどん社会に出ることは難しいと感じることがある。
- ・今のところ結婚は考えていない、まずは自分のことをやって余裕があれば、くらい。親や親せきなど結婚について言われたり、田舎特有の感じはある。
- ・結婚願望はあるが、20代のときほど焦りはなくなった。巡り会いとタイミングかなと思っている。いまは仕事のことだけ考えようという感じ。
- ・20代のときに感じていた焦りは20代のほうが結婚しやすいのかなというイメージ。市場価値。出産もそう。体力的にも。いまは何も気にしていない。
- ・出産にはタイムリミットがある。出産に対するモチベがあっても、ほかで自分がやりたいことを続けるうちにいつのまにか時間がたってリミットがきている人が多い。
- ・結婚したくはないけど子どもはほしい。結婚しないと子どもを産んではいけない空気がある。認められる空気になるといい。（選択的シングル）
- ・起業したい、こういうプロジェクトやりたいなど話せるコミュニティがない。そういう場を探しても男性ばかり。女性で自分のやりたいことなどを話せるコミュニティがあるといいなとすごく思う。

○移住窓口担当者

（業務改善点、移住検討者にとっての移住のボトルネック 等）

- ・名古屋（愛知県）の人は移住マインドが低く、地元が大好きな人が多い印象。
- ・ボトルネックはやはり収入。移住支援金のような一時金もよいが、職場環境（給料含む）が改善しないといけないと感じる。
- ・年収が下がるということは、地方移住希望者の共通認識に近くなってきている。
- ・収入が下がることがネックになることはよく言われており、さらに収入が下がる幅が大きいと思う。例えば営業職で月15万円～とみて移住したい人がどれだけいるのか。
- ・Iターン相談者が福井県のことを良く知らないと感じる。関西・中京圏の人はなんとなく嶺南に関心がある方が多いイメージだが、仕事の部分がネックになる。
- ・嶺南について。この職を始めた当時から求人が少ないという話があった。嶺南の地元の方に聞くと、求人はいっぱいあると言っていた。この違いは何か。→製造業はそこそこ求人があるが、商社や卸売りなどサービス系の職種が嶺北に比べて少ない。
- ・地元づきあいやコミュニティの雰囲気を感じにす人が多い。お客さんで行くのではないので、そこは移住側の努力が必要であることは伝えている。
- ・原発があるため、嶺南エリアへの移住に際して気にされる方もいる。（体感嶺南を考慮していた方の1割くらいは気にしている。）

- ・車社会に対してハードルを感じている人が多い。車がなくても生活できた人たちからすると、車がないといけない点が、運転をしないといけないというハードル、コスト面的なハードルなどいろんな面でネックとなっていると思う。
- ・移住支援金などの一時金は移住のきっかけや決め手にはならないと思う。県には幅広い情報発信をしてほしい。長期的には魅力ある福井県にしてほしい。
- ・自治体によって移住支援金の額に差があるが、その金額を頑張ったところであまり効果はないように感じる。それで移住先を選ぶ人はあまりいないと思う。
- ・冬場の気候を気にされる方が結構いる。説明はするが、皆さんにはぜひ現地に行って実際の天気を見てほしいと思う。移住体験の交通費支援が年度1回のみなので、社会人向けに2回とか、複数回助成してくれるとよいと思う。(1回だけでも手厚いと感じてはいる。)
- ・相談者の中には、住まいの紹介、あっせんまでしてもらえと思って窓口に来る人も多いが、福井県の移住窓口ではそこまでしていない。行政サービスとして案内できるのは空き家バンクくらい。そういった意味で家探しのサポートは弱い印象。
- ・相談者が移住先候補がいくつかある中で福井県をやめた後移住した先の自治体の支援内容などを見ていると、伴走支援者(コンシェルジュ)がいることが多い。家探しまで一緒にサポートしていることもある。
- ・移住体験していく人は、おいしかった、楽しかった、とはなってくれるがそこからもう一度来るには人との触れ合いが重要だと思う。行った先で知り合いができるできないで大分違う。
- ・移住に係る交通費支援をしているが、その支援が次につながっているかは把握できない。支援した方がその後どうなったかは気になる。
- ・リレー形式の支援なので、窓口で対応した方がその後どうなったかは分からないのは課題に感じる。対応した方が最終的に移住につながったかが分かると窓口での対応の仕方の改善もできる。
- ・制度としてはいっぱいいいものがあるので、運用でもう少し踏み込めると思う。
- ・福井県は他の自治体に比べて本当にたくさん施策をしていると思う。今やっている事業を活用できれば十分効果が出ると思う。そこがうまくいっていないのは、やはり連携が肝だと思う。結果のフィードバックや数字・状況の把握をするだけでも違うと思う。
- ・福井の企業のごことはあまり知らない。福井の仕事の実情をもっと知りたい。
- ・福井県には移住サポーターがいるが、相談者とマッチングするために、移住サポーターのことをもう少し知りたい。
- ・移住サポーターの紹介はHPに載っていて、コンタクト可能になっているが、どんな人かわかりづらい。会ってなくても会った気になるように、1人1人紹介するような感じでyoutube等で発信してはどうか。
- ・サポーターとつながった方は移住が具体的に進んでいる感じがする。サポーターの存在は大事なので、どうつなげるかが課題。
- ・県外の方がぜひ欲しいという熱意を持った企業に合同説明会などに来てほしい。

- ・企業の人事の方は熱意があっても、トップがそうでないというパターンもある。企業のトップの教育が必要。
- ・受け入れ自治体の対応に濃淡があるように感じる。積極性に違いを感じる。

○事業承継（する側）

（事業承継をすることについて。継ぎ手に期待すること。）

- ・安全安心を第一にやってきた。子どもにもそこは大事にしてほしい。地域にあってよかったと思ってもらえる企業であってほしい。
- ・自分の技術を磨くことが重要。営業をすとしても、技術を持っている人が話した方が顧客的にも良いし、話が早い。自分は最初会社の事務から何から全部をやりながら、人を増やしていった経緯があるので、いろんなことが身についたが、今は分業も進んで、全体を見渡しづらい。子どもには早く上に立ってほしいと思うが、技術よりも先に人の上に立つことを覚えてしまう。本当は技術を持つことも大事にしてほしいと思っている。
- ・祖父、父、自分と技能が落ちてきている気がする。息子にはちゃんと学びなおしてもらい、自分も一緒に学びたい。
- ・当代でお客さんとのつながりは作ったので、息子たちにはうまくやってもらいたい。
- ・（精肉業）自分が大事にしている考えは息子もわかってくれていると思う。ビジネス的には、どう付加価値を付けるかということで飲食店を始めることにした。息子には飲食店のマネージャーをさせている。今は新幹線のひと盛り上がり落ち着いて厳しい時期だが、逆に息子にやっとそういう経験をさせられているなど感じる。我々がはいつくばってやってきた経験を息子にも経験させられているという意味では良い時期だと思う。
- ・国全体で生産性向上とよく言っているが、生産性向上だけではできないこともある。質のいいものを作ることにお金をかけるべき。

（事業承継の不安や心配について）

- ・近年時代の流れるスピードが速すぎる。先が予測できない。自分の息子が主でやるときに、時流に乗ってやっていけるか、不安。今のことはできているが、先を読む力に関しては不安。
- ・業界全体が今後どうなっていくのかが分からない。
- ・息子は外に出ていろんな話を聞き学んでくるが、大企業でしかできないことだろうと思う提案もある。時代も変わってきているからなのか、考えが合わない時がある。そこが不安。
- ・人が入ってこないのが不安。安倍首相のころからいろいろ補助金が入って設備を購入できるようになったが、人が入ってこない。入ってもすぐにやめる。飲食店などサービス業は、専門知識がなくてもある程度お金が入るからこちらの業界は選ばれにくい。

- ・ミスをした社員にも今は怒れない。怒るとやめてしまう。何十万円する機械をミスで壊しても、昔みたいに怒ってしまうと、頑張るではなく、責任を取ってやめるという話になってしまう。
- ・また最低賃金が上がった。130万円の壁をどうにかしてくれないとパートが働ける時間が短くなってしまう。
- ・商品の値上げ交渉も大変。値上げできないと費用ばかり値上がりすることになってしまう。相手方と交渉するが、そうすんなり値上げに応じてくれない。
- ・今、大量生産大量販売をしないとついていけない構図になっている。日本人は食品の価格に対して危機感がなさすぎる。安ければいいという顧客の感覚が変わらないといけない。
- ・国は働き方改革を推し進めているが、中小企業は大打撃を食らっている。
- ・従業員の考え方も変わってきていて、有給はとらないといけない、権利だという意識が強くなっている。人数の少ない中小企業では休みとったときの他の従業員の負担のかかり方が大きい。
- ・有給とらせなかったら罰則、ではなく、有給とらせたら奨励金、の方がいいと思う。
- ・新たな仕組みを作るならそれで受ける損の仕組みを解決してからでないと困る。
(例えばキャッシュレス決済の手数料は3%、現金よりもその分利益が減るということ。国が推し進めるならその辺の仕組みの整理をしてからにしてほしい。)

○事業承継（される側）

（事業承継をすることについて。）

- ・自分の覚悟がなければ、継承するタイミングは社長として「いつからか」の決断してもらえた方がいいし、先代の役割だと思う。
- ・社員の高齢化が進む中、ベテラン社員から目もあるので次の社長として認めてもらえた状態で承継したい。
- ・今までとは違う立場として社員の意見をまとめて決定権を持って接する覚悟を持つてようになったら承継したい。
- ・自分は自分でという色を出していくというのも大切。
- ・県外に出て色々な経験を積みさせてもらったことは先代と全く違うということを再認識し、自分にしかできないことを考えたい。
- ・先代は全部の仕事を全部自分でやっていたため、跡継ぎは上の弟だが・娘・その夫で分業して引き継いでほしいと考えている。

（親と事業承継について話をしたか）

- ・昔よくしていた。未来を考える為に過去を知らなければいけないということで、今までの軌跡を社員にもシェアしている。この取り組みにより会社の思いが社員にも伝わる実感がある。
- ・大人になってから聞いた。子どもの頃は全く教えてもらえなかったり、サラッと聞いた程度。

- ・高校生ぐらいの時から正月に会社を掃除して、社長室で今年の経営状況を聞かされていた。やんわりと兄弟の誰かには継いで欲しいと雰囲気では伝えられていた。やんわりと経緯や大変だったことなどを聞かされていたことは事業継承という意識に影響していったと思う。
- ・家が仕事場なので、会社という感覚ではなく、仕事に対する誇りも生活の中で感じていたので自然な流れで仕事をしていくイメージは小学校ぐらいから持っていた。
- ・親からは何も言われていなかったが、親が楽しそうに仕事していたり、家で仕事の話の話を聞いたり、仕事の音などを聞いていたため、仕事に対するやりがいや大変さなどは自然と感じていて、社長になるために人生も準備をしていた。
- ・事業継承は直接言わない方が継承に対して抵抗なく始められるのではないか。

(事業承継の課題)

- ・社長は孤独な仕事であり事業継承に対する悩みを自分にためこんだり・不安を抱えてしまうのでこういった話ができる会をどんどん開催して欲しい。
- ・社長だからという肩書を外して自由な交流会を行うのも良い。地域欲にもなっていくし、大切なコミュニケーションも取れていくと思う。
- ・一晩だけなんでもさらけ出していい場があるといい。
- ・身内が絡んでいるので、言えない事や話せないことが多く相談しにくい。悪い事ばかりではないけど、その日限りで言いたい事を自由に言える場所があるといい。普段はどこで話が漏れるか分からない部分があるので内部の事を外の人に話すことができなくて苦しい。
- ・継承するプロセスを教える業界ごとのサポートをしてくれるコンサルのような窓口があると嬉しい。今の社長が同業者としか関わっていないケースも多く、柔軟な考えになれない人もいるので継ぐ側に焦点をあてた考え方のサポートも欲しい。
- ・違う事業・業種で継承する人との事例や話などを通して事業継承する側の考えや意見を他の角度から知ったり、第三者がお互い何を悩んでいるのかを共有する場所があるといい。家族や親族と仕事しているからこそ、思いが強くなりつい喧嘩になってしまいがちで、第三者の意見の方が伝わりやすいと感じるから。
- ・社長の今までやって来たことの考えが強く、時代にあってないと感じるところもある。身内ではなく他の事業継承する人かつ違う業種の人意見や、世代間の意見や視点を知ってもらって第三者の目線も持って事業継承について考えて欲しい。
- ・結局内部だけ、社長だけの考えに偏りがち。継承する側の意見としては事業とは全く関係のない第三者からの目線や関わりを持つことでお互いの理解が深まる機会を持ちたい。社長の話を聞きたくないわけでもないし、伝えようともしてるがコミュニケーションが身内であることによって伝わりにくくなっている部分が多くあると感じる。

○文化振興

(福井の文化について)

- ・福井の歴史は独特。日本のポンパイ、恐竜など、豊富。鯖街道は、京都とつながる歴史的に非常に価値のあるものなのに、あまり知られておらず、もったいない。
- ・観光ビジョンの策定委員にもなっている。県は、インバウンド向けに刺さるコンテンツを作らないと、と考えているが、コンテンツはすでにある。逆に手を入れるべきでない。
- ・若い人は、県内に文化的な魅力がない、というが、福井にもある。ずっと福井にいと、当たり前であって、見えていないだけ。
- ・外国人の方が、福井をよく見ている。工芸体験やそば打ち体験など、他県に比べても、県内はいろいろなことができる。

(文化振興に必要なこと)

- ・なぜ福井に文化が育たないのかということ、それが当たり前になっていないということではないか。
- ・自分はずっと福井にいる。三国で、祭りや花火など、地元の大人が町を楽しむ姿を見て育っており、DNA のレベルで三国への思いがあると思う。大人が町を楽しむことが大事。
- ・東京に出て行っても、地元で愛された経験があると、帰りたいという気持ちにつながる。福井での生活を楽しむ、楽しい大人がいなるといけない。
- ・先日、紫式部ゆかりの地を巡るバスツアーを南越前町の主催で実施したところ、大盛況だった。ゆかりの地について自分で調べた内容など、参加者同士で盛り上がっただけでなく、この場所が新田義貞ゆかりの地であることも解説すると、とても感銘を受けた様子だった。日常の場所でも見え方が変わること、一層地元を好きになり、自慢したいくらいになる。
- ・県には、若者チャレンジの応援はあるが、おっさんでもワクワクできるよう、チャレンジを応援してほしい。
- ・はぴコインで、社会貢献活動をするとポイントがもらえる仕組みができたが、とても良い。それをもう少し大きくしてチャレンジ応援になるとよい。
- ・音楽系では、ずば抜けた人はいなくても、ある程度の人を何人か組み合わせれば、プロも越えられる。県内のクラシックでは、演奏者はいても資金調達や裏方を務める人、全体をプロデュースする人がいない。ハブになる人が地元の人をつないでいくと変わるのではないか。
- ・県出身の著名人に1回来て演奏や指導をしてもらうより、同じ経費をかけるなら、地元のプレイヤーに何度もかかわってもらった方がよい。大きな1回より小さく何回も機会を作った方がよい。
- ・プロを育てることだけが文化振興ではない。プレイヤーの育成（すそ野を広げること）がとても大事。
- ・みんながそれぞれに何かをやっていて、「私は〇〇をやっているの、今度見に来て」ということが当たり前になること、それが、本当に文化レベルが高いということ。
- ・市井の文化の人をつなぐ人がいるとよい。タネは市井の人が持っている。それを育てるのに行政が伴走支援してくれるとよい。

○スポーツ振興

(スポーツ振興の課題)

- ・活動人口の減少。活動人口が減っているなので、競技として強化するのも難しい。
- ・体育館、夏が暑く、活動の時間を短くするなどして対応している。部費を使ってクーラーがついている場所を借りて部活動をすることもある。
- ・(学校以外での部活動の際は) 教員の自家用車で生徒を送っている。規則的に OK なのかは不明。
- ・子どもの数は減っているが、競技の選択肢が増えているため、分散している。
- ・(チアダンス) 新幹線開業でイベントが多くて、出演依頼がそこそこあるが、これからもパフォーマンスする場が残っていくかは不安。自主公演ができる場所が増えるといい。
- ・まず道具の値段が上がっている。昔の道具を使いまわしたりして練習している。道具がそろわないのが課題。また、練習できる場所も少なくなっており、記録がどんどん下がっている。
- ・昔は体育館のロープや鉄棒で練習していたが、安全性などの観点から撤去が進められており、室内も練習できる環境でなくなってきている。
- ・(柔道) 毎オリンピックメダルを取っているのに、人気の上昇につながらないのが悩み。団体の考えの古さもあり、広報もうまくいかない。指導者は人数はいるが高齢な方が多い。古い指導、考え方が残っている。
- ・課題は予算と活動場所。クラブチームの場合、学校みたいにホームとなる体育館がない。学校を借りたりしているが、学校も学生が優先なので、好きには使えない。公営の体育館も使用料がもう少し安くなるといい。保護者の負担にもなる。
- ・働き方改革で部活の活動日数が減っている。小学校のチーム出身の子が中学校に上がったときに頑張れる環境でない。部活の練習強度が弱くなったことがきっかけでクラブチームを作ったが、部活がなくなったわけではないので、クラブチームも満足に練習できていない状況にある。
- ・道具がないとできない、相手がいないと練習できない、広さがある、みたいな種目は先に人口が減る。趣味レベルのことができるもの(場所や道具を選ばないようなもの)、国体などをきっかけに市町をあげて特化している競技以外はなかなか厳しい。
- ・三国の運動公園は昔砂地で無料で使えたが、今は芝が張られて有料になったのはつらい。
- ・子持ちとしては、公園に遊具が少ない。遊具レベルの危ない経験は必要だと思える場が今ない。普段危ない経験をする機会が全くないことが、怪我するイメージの競技に取り組み続けることができない要因の一つになっているのではないかと。
- ・(チアリーディング) 初心者向けのワークショップ(3日間のプログラムで練習→公演に参加)をしているが、結構人気。軽く体験する機会があるのはいいと思う。

- ・ いろんな競技が軽く体験できるようなイベント（習い事フェアみたいな）をする
 といいいのでは？県立体育館とか運動公園など、公営で良い場所もある。県立体育館
 なら室内競技もできるし、冬開催で人も来てくれるのでは。
- ・ 地域のつながりも希薄になっている中で、いろんなことを知る機会が少なくなっ
 ているし、習い事も人生の中での地域とのつながりづくりになると思うので、地域
 のつながりの希薄化に代わるシビックプライドの醸成の一手段になると思う。

○起業関係者（男性）

（福井県の地域課題について（地方活性化・グローバル化・多様性））

- ・ 福井をサイバーバレーのような形で、新しい新産業集積地にしたい。
- ・ 福井の良さは県外のいろいろなよそ者を受け入れてくれるところ。その良さを外
 国人に向けても見せることができるといい。福井に行くと、どこに行っても何か受
 け入れてくれる等いう雰囲気づくり。そういう点で世界一になってはどうか。
- ・ 外国の方や LGBTQ の方などのいろいろな価値観のインストール起点ができればよ
 い。結果的に受け入れるということにもつながる。
- ・ 外国人に声をかけるおせっかい地元民みたいな制度があると面白い。検定制にし
 て、駅で迷っている人たちに声をかけてはどうか。
- ・ 鯖江市は 1995 年に世界体操選手権を開催したときに、ホテルがないので、町内ご
 とにホームステイで選手を受け入れていた。それはすごいと思った。この伝説はも
 っと知ってほしい。
- ・ その国の選手が出るからと、受け入れている町内の人たちが応援に来る。アウエ
 イなのに応援団がいた。それで盛り上がった。福井に前例はある。
- ・ グローバル化というよりは、もっと混ぜた方がいいと思う。日本人の人口を増や
 そうと頑張る

必要は全くないと思う。

- ・ 試験中検索等 OK な TOEIC のようなものを作ってはどうか。TOEIC や TOEFL では反
 則になるが、現実社会ではコミュニケーションをとる際にその場で検索等行うこと
 は全然ある。検索等はして OK の状況で会話を検定する。それを福井発でやったら
 面白い。実会話力の検定。

（働き方・キャリア支援について）

- ・ 自分の夢は、今はまだ小さいが、仕事をたくさんとってきて、福井の子育て世代
 の女性たちに、家でも仕事をできるような仕組みを作りたいと思っている。
- ・ ぜひ女子プログラマーを増やしたいと思っている。エンジニアになると単価が全
 然違う。オンラインで時間の自由がきく仕事は世界で山ほどある。日本だけでもず
 っと不足している。
- ・ お金の面で若い女性の人たちが出ていってしまう面があるので、こういったいろ
 んな働き方があるというのが大事。
- ・ 仕事ができる人は自分で抱え込まない。周りに聞きながら適材適所に人を置きな
 がらシナジーが出るように進めていることに徐々に気づいている。自分だけでして
 も成果がなかなか出ない。行政の仕事はまさにそういう話だと思う。

- ・今、子育ての話とキャリアの話がトレードオフの関係になってしまっている。どうしても統合されていない。
- ・一案として、社屋などを建てる時に、そういう施設を横付けするとか、そういうものをセットでやったら県が補助金を出すなど、ビジネスと家庭といった区分けの話では無く、全部混ぜてやった方が良いのではないかと思う。
- ・そもそも今の就業という規則自体を男性が作っているのが良くないと思う。決まった時間、月から金で働くというのは、何のバイオリズムもない男性だからできる話。男性が就業規則を決めてしまうから問題。女性が社長をして就業規則を決めればよいと思う。

(教育・育成について)

- ・いかに今いる人を育てるか、と、いかに人を呼んでくるかの2軸で考えることが重要。
- ・変な大人(とんがった人)たちが地域で活動・活躍することも大事だし、そういう人たちが増えると、結果多様性になり、それがさらに多様性を加速させる。
- ・若い女性が流出しないために、カッコいい男性を国内外から呼んでくる必要があると思う。
- ・福井の人は本当に真面目なので、目標の大学に向けて手厚く教えてくれるが、もっとやることはあるのではないかと思う。
- ・教育は教育県からこそ相当突き抜けてほしい。
- ・本当に1人ずつ個別に最適化された授業があれば、いくらでもハイレベルな授業が受けられるし、いくらでも底を救ってあげることができる。その理想像を追い求めるところを、いち早く福井県はやって欲しい。
- ・レベルの高い教育を求める場合は、追加で負担をしてもらえればできる、みたいな環境づくりは本来は県単位で行ってもいいと思う。
- ・受験一辺倒なのもどうかと思う。本来必要な力は何かというところに立ち返って、ちゃんとやり直した方がいい。

(地域社会と家族・コミュニティについて)

- ・子育ては福井の昔のモデル。おじいちゃんおばあちゃんにある程度頼るのがいいと思う。
- ・福井県では、ずっと同居率が高く、祖父母が子育てをすることが基本だったが、最近は核家族が多く、薄れてしまいつつある。
- ・政治家や経営者にはなぜ長生きする方が多いのかと思っていたが、それは役割があるからのように思う。そういう意味で、役割の一つとして子育てはあってもいいと思う。
- ・シニア世代になり自分の番だとなったら、子ども夫婦が遠くへ行き、孫に接する機会が失われてしまった人たちに地域の子どもの面倒を見てもらいたい。
- ・おじいちゃんおばあちゃんも育てがいがある子どもたちがいると、元気になると思う。

(移住・交流促進と流動人口の拡大について)

- ・永住は難しいと思うが、流動人口を増やすことはまだ可能なのではないかと思う。
- ・子ども移民を受け入れたい。子どもをロングタームで、ホームステイで受け入れる。
- ・生徒数が少ない学校に子どもたちをどんどん受け入れる。
- ・個人的に、子どもにいろいろと経験させたいと思った時に、留学はお金がかかるので、外国人の知り合いがいる友達のところに1か月ぐらい行かせればいいのではと思っている。
- ・都会の学校の環境が合わない子どもはたくさんいると思う。東京の大手企業であればテレワークをしている企業はたくさんあると思うので、そういう家族に福井に移住してもらえればよい。

○起業関係者（女性）

(福井県の地域課題について)

- ・福井はイエスマンが多すぎると感じる。中間テストの対策のために何度もテストを行い、点数を上げることに注力しているが、これからの時代には適していない。正解がない時代に、正解を求めることに必死になっている福井県の教育は、本当に変わっていないと感じる。
- ・高校生と商品開発の授業を行っているが、何回も繰り返していくうちに、すごくアイデアが湧いてくるようになる。実際に商品化をするという状況下で、アイデアが湧き、本当に一事業者として物事を捉え、真剣に取り組むようになっていった。学生のうちにそのような経験ができる機会が非常に少ないと感じる。子どものうちにいろんなことにチャレンジさせる仕組みがあるといい。
- ・失敗してもいいから、挑戦している大人が少ないから挑戦しない。そこが問題。もっとやってみたいと言って挑戦する大人が必要。失敗した経験を語り、見せる場が必要。
- ・正解を探すのではなく、正解を作っていく、そういう精神性がある子どもは絶対的に自信が必要。何をしても自分はありのままでもいいんだという、絶対的なその自信ってどこから来るかと言えば、家庭や身近な大人からのサポートから。
- ・沖縄県は客観的幸福度指数は低いが、沖縄の人々の主観的幸福度は非常に高い。これは、戦争の歴史を学び、それと比較して自分たちの幸せを常に考えているから。福井も客観的幸福度指数は全国トップであるが、主観的に幸福に感じられないのは、比較する対象がないからだと思う。実際には多くのものがあるが、それに気づく機会がなかったということ。
- ・せっかく幸福度1位なら、女性の幸福度も堂々と1位だといえるといいなと思う。
- ・福井には美術館や劇場など、教養に触れる場所が少ないと思っていた。それもあつり県外の大学に行った。都会には小さな劇場や美術館が多く、それはそれで非常に

良かったが、福井に帰ってきて気づいたのは、小さくてもそういった場所があるということ。しかし、それはこの年齢になって初めて気づける部分でもあると思う。

- ・(カフェ経営) カフェを開いた場所が、自分の居住地と違うので、地域の方に受け入れてもらえなかった。今でもよそ者と言われている。よそ者が荒らしてるとまだ言われることがある。よそ者や新しい取り組みを受け入れる体制(地域や根付いている団体等)ができてない地域もある。
- ・県民が主体的に当事者意識を持って動けることが大事である。やりたいと思った人がチャレンジできるフィールドを作ることが重要であり、行政だけでなく民間でもできることはやるべきである。
- ・ビジネスモデルも大きなことより、細かい活動をたくさんの方がやっていくことが重要である。草の根活動を通じて底上げができる。民間の活動を承認し、活動しやすくすることが早い解決策だと思う。何かしたいと思っている人はたくさんいると思う。

(女性の働き方について)

- ・働きながら育児したり、家の仕事をしたり、女の人の背負うものがとても大きいと思う。これから大人になる若い世代の子たちには私と同じ轍を踏んでほしくないと思う。必死に子育てして、働いて、それがノーマルだと思っていた、特に20代は生きづらかった。女性自身の体調の波もあったり、その中で子育て、介護、就労など、女性の生きづらさというのは、事例ごとに複雑。
- ・今の仕事ができるのは、母頼りのところもあって、母がもし倒れたら私はこの仕事続けられない。このままではダメだなとずっと思っているし、みんなの課題ではないかと思う。子育てしていると夜7時のとか8時の会議なんて絶対に出られない。24時間みんなの場所みたいなものがあって、みんなで晩御飯を食べる子どもたちの居場所があったりとか、そういう風な社会的支援がない限りはこれ以上女性活躍を進めるのは無理ではないかと思う。マンパワー頼りでなんとかしようとしてきた古い時代の価値観はもう変えてあげないといけない。
- ・働く女性は託児所や親、役所など多くの調整が必要であり、パニックになることが多い。先ほども話に挙がっていた、子育てしながら働ける施設(環境)の需要は増える。
- ・今のままでは、働こうとする人すら減ると思う。シングルでも、しっかり稼いで、楽しく子供と過ごせる社会になってほしいなと思っている。
- ・働き方としては、特に女性は9時5時の働き方では働けない人もいるため、定時という考えかたを取っ払うべきだと思う。東京にはフルリモートの案件とかたくさんあって、在宅ワークである程度の収入が得られる仕事もあるが、福井県ではほとんどない。9時5時、現場という。これもう都会と地方の明らかな格差だと思う。福井にいる女性で、ママで仕事したい人で、リモートで都内の仕事とかできるかもなと思っている。

(地域のインフラの充実)

- ・共働き世帯の中には、子どもを家で1人で留守番させている家庭も少なくない。昔だったら、公園で遊ばたけど、今それもしづらく、子どもにとってもよくない社会だなと思っている。
 - ・いろんな託児所を携帯の連絡先に入れていて、預けないといけないときに空き状況を確認するのだが、すぐ埋まってしまう。シルバー人材を使おうとするけど、あんまり元気がない。連絡すると、すごい嫌そうにはい何時お迎えですか。みたいな対応をされる。
 - ・家族大事だし、子どもを大切にしたいが、どうしてもやっぱりって預けるところの環境が悪いと、預けることに対して罪悪感を感じてしまう。子どもを預けることに罪悪感を感じないような環境、サポートが欲しい。
 - ・逆に自分が子どもを連れてどこかに出かけるときなんか、あともう1人ぐらい見れるなと思ったら、他の家で誰か1人でいる子どもがいたら、その子も連れて、みんな公園に行けるシステムとかあればいい。
 - ・シングルかシングルじゃないかとか、共働きかそうでないかの違いだけで、経験値の差が出たり、孤立・孤独を感じないようなシステムが、子育てインフラとしてすごく大事だと思う。
 - ・女性が幸せで子育てし、暮らしていける社会を作るために、ポジティブな声をもっと聞きたい。
-
- ・地域に必ずある公民館を活用すべき。調理室も和室もあるし、いろんな使い方ができる。今人口も減っているから、使われてない。公民館を拠点に、老若男女みんなが集える場所ができるといいと思う。公民館活用は今後やってみると面白いだろうなと思う。
 - ・子育てをしながら働いている人たちの支援も、企業単位で入り込むべきだと思うが、産まない選択をする女性も尊重できる社会であるべきであり、会社内で積極的に子育て応援に取り組むにはハードルが高い部分もある。公民館を活用すれば、そういった心情的なハードルも解消できると思う。公民館は地域ごとにあるため、それぞれの企業の近くにもあるはず。
 - ・多文化共生や思いやり、支え合いの社会、いわゆる協創というのは、そもそも他者理解が前提としてあって、そのためには自己理解が必要であり、自分を尊重することで他者の意見に理解を示し、協創ができると思う。自己理解のためにも、多くのコミュニティや人に支えられていることを感じられる仕組みが必要である。公民館に行けば誰かがいるなどの関係の中で、自分を支えて生きている実感を持てる、社会に対してもオープンになれる。
 - ・今後どんどんみんなの出産年齢が高齢化していったら、団塊の世代が後期高齢者になるころには、ダブルケアラーが増えて、もっとピンチになる。
 - ・育児休業だけでなく、介護休業も必要だが、休職して戻ると戦力外になったと感じることもあると聞く。50代のキャリアを積んだ女性が介護で辞めたり、更年期の

サポートが必要な場合も多い。間違ったサポートが多く、正しいサポートが必要である。

(個人のキャリア、人生設計等について)

- ・女性のキャリアプランについて。キャリアプランを考える機会はいろいろあるが、子どもを産む時期や身体的な面も考慮してキャリアプランを考える機会がない。大学生の時にそういったイベントに参加して初めて気づいた。子どもを産まないという選択をする人ももちろんいると思うが、子どもが欲しいと思っているなら、どういうキャリアプランになるのか、学生のころから考えて多くことが重要だと思う。
- ・今の日本の制度では、みんな保険証を持っているため、アメリカと違って病気になってから体に興味が向く。アメリカでは治療に何百万もかかることもあり、そうならないように気を付けるという考えが根付いている。自分の体のこと、性別による違いなど、そういったことを学ぶ機会はもっと必要だと思う。

5 分野別意見交換会における主な意見

<産業・労働分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・大阪関西万博へのパビリオン出展について、福井で発見された「フクイラブトル」の実物大模型を活用することに賛成。皮膚の色彩については、必ずしも過去の作品にとらわれる必要はないが、福井駅前や恐竜博物館に設置してあるロボットに近いものの方がなじみがあっていいかもしれない。

(2) 福井県の改善すべきところ

・宿の稼働状況が2極化している。例年落ち込む6月でも稼働率5割を超える宿もあれば、数%の宿もある。しっかり投資してきたところは伸びている。

・今以上にICTが進歩し、業務が簡略化されるようにしてほしい

・人手が不足しているので、1日の中でスポットで就業者がいないようなところをカバーできる体制を整えたい

・IoTについて、自動化による成果・気づきを次の取組へのモチベーションにし、そのモチベーションを上げる仕組み作りが課題

・技術のみ、研究のみで捉えるのではなく、付加価値と技術を結びつけるアイデアを実行することが課題

・2024年問題について、事業者アンケートでは改善しているとの回答が増えているが、改善したように見えているだけではないか

・人手不足について、採用が難しくなっている。歩合制の事業者が多く、時間外労働の上限規制による収入減に不満を持ち離職する者も出ている。看護師等のように、専門学校を出て学んだことを活かせるような、就業につながる流れを作るべき

・実行者がなかなかクラウドファンディングに踏み出せない現状があると思うため、もっと利用しやすいイメージを持って貰えるようにしていけると良い。

・国際地域学部の「PBL」はテーマ設定が難しい。県庁が良いテーマを提供してもらえらるならコラボしたい。

・次年度以降の地域おこしマネージャーの体制について、メンタル的な相談対応を行う者と、活動促進・事業拡大に向けた応援を行う者と役割を明確にしてもよいのでは。

・インターンシップについて、多くが大学院生である。文系学生の受入はできない。

・1day 仕事体験は大事と感じており、1,2年生への対応の重要性は理解している。競合他社も早期化しており、募集期間を考えると来年度も同じスケジュール感で行いたいため、ふくいインターンシップの日程や詳細を確認し、前向きに検討したい。

(3) 望ましい将来像

・国等に対しては、成長へのアクセラを分配へのアクセラと同程度に踏んでいただきたい。企業の成長をより促す施策、企業の負担をより軽減する施策も必要

- ・漁業協同組合としては、地産地消を考えていきたい。地元で流通する仕組みを考えたい。
- ・ふくいの製造業の研究開発機能は全国と比べて弱く、強化が必要。誘致した大企業の拠点の研究開発機能を強化することも良いが、ふくいの製造業の弱いところを伸ばすことも重要
- ・製造業は、モノを作って終わりではなく、価値づくり産業、社会課題の解決などにもつなげることも必要
- ・サーキュラーエコノミーについて、地域の繊維産業における炭素繊維のリサイクルが可能になれば、社会デザインの観点から「捨てさせない」という文化的な面とセットにして売りにできる
- ・若者は、SDGs、脱炭素の教育を受けているのが当たり前。採用する際には、企業がそれらに取り組んでいることが必要。これは、一人当たりの付加価値額を高めていく点でも重要
- ・産学官金連携について、産総研北陸センターの開所をきっかけに、もっと進化させていくべきではないか
- ・今の大学生は SNS で繋がるのが当たり前。大学の入学式より前に SNS で繋がるため、会場で「初めまして」ではない。就活中も、企業と学生が1対1で連絡を取るよりも複数の学生がつながっている仕組みのほうが学生ウケがよい。安心感をキーワードに、学生と繋がるとよい。
- ・学生は金銭的メリットがないと県内定着は難しい。奨学金制度利用者の報告会や交流会を開くと、生の声が聞けて良いと思う。
- ・本当に県内定着を進めるのであれば、中学・高校から企業と関われる機会を増やすべき。例えば、花王や大成建設は高校生以下向けの工場見学やワークショップを行っており、とても人気。学校の「探求学習」の中で企業紹介ができると面白いと思う。
- ・3月の合同企業説明会は福井新聞社にとっても負担。費用負担等課題はあるが、県庁と共同開催できるとありがたい。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・賃上げに向けて、取引価格の適正化が一層必要。付加価値を言語化して価格交渉力を磨くことも重要
- ・投資をする発想やビジネスモデルの変革など、経営者の意識改革が大事
- ・県内事業者が海外販路開拓を進めるには、事業者のレベルにあわせた事業やサポートが必要になるので、各関係機関が行う事業や支援内容などの情報共有が必要
- ・若者の定住が課題となっているが、保育士等は資格を有していれば地元でも移住先でも職に困ることはないの利点。それを周知していくべき。高校生の有償ボランティアを導入すれば保育士の負担軽減にもなるのでは。また、保育体験イベントでも高校生ボランティアを活用すると良い。
- ・都会発着のイベントを核に福井に連れてくる仕掛けづくりは有効ではないか。
- ・各市町に移住サポーターと移住者が交流できる拠点があると定着支援にもなるのではないか。

<農林水産（加工品含む）分野>

（１）福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・多面的機能支払のおかげで非農家も用排水の掃除に出役するようになり、なんとか維持していくことができている。

（２）福井県の改善すべきところ

・中山間では離農が加速。全面委託が多くなってきており、鳥獣害対策等の管理保全是以前と比べて多くなってきているが、農業をしていないからと断られる。

・静岡から、有機栽培で米作りをしたいと希望していた人が来て受け入れたが、現実には厳しく、生活できないと断念された。

・イノシシ被害でそば 20ha が全滅するなど、鳥獣害のせいで経営が成り立たない。

・集落営農組織の後継者不足が深刻

・田んぼを受託している担い手が鳥獣害対策をやっていて、負担が大きく、面積拡大の支障となっている。

・漁業者が減って単位漁協では経営が苦しくなっている。

・温暖化等の影響で良、不良の波が激しくなって安定経営が難しくなっている。

・マハタの出荷を増やしたいが、ウイルスの病気が懸念され、増産にブレーキがかかっている。病気にかかった魚だが食べても支障ないので有効に活用できる方策があれば良い。

・カラスの糞による景観の悪化や農作物の被害が甚大

・若狭地区は中山間地の割合が多く、農地の維持管理に苦労している。

・ここ数年間で山際の耕作放棄地が増えた。小区画で鳥獣害被害も多く、担い手が受託を断るため、どんどん増えていく一方

・農業は農地の集約化、機械化・スマート農業による効率化、経営規模の拡大による経営の安定化等を進めているが、中山間地域では到底実現できない。中山間地域に対応した農業施策を望む。

・農地に隣接した国道、県道の法面の除草は農作業の一貫や社会奉仕活動として慣習的に地域住民が行っている。高齢化が進む中で除草作業に従事できる人員も減少し、地域住民の負担になってきている。道路管理者としての直接管理や地域で行った作業に対する対価の支払など、地域住民のボランティア活動に大きく依存する道路管理を改めて欲しい。（河川区域内の法面の除草や河床の葦などの刈払いも同様）

（３）望ましい将来像

・若狭まはたを PR していきたい。イベントの他に何かできないか。商品化も前向きに検討していきたい。

・農業体験や漁業体験を通して、交流人口を増加させていきたい

・中山間地こそスマート農業を進めるべき。コスト削減できる。

・生産面から気候変動に対応できるような施策を入れたい。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・これから定年が65歳になると定年後就農者はほとんどいなくなるため、新規就農者への支援を手厚くし定着を図っていくべき。
- ・たくさんある施策の中から、まずは優先順位をつけることが必要。儲ければ活気も出るし人も集まる。儲かる仕組みを作ることが一番大事。
- ・少量多品種の福井県だからこそ、県内消費を確実に固めることが他県より大事なことになる。
- ・地域のビジネスモデルになるような取り組みやその地域のファンづくりにつながるような取り組みが大事。
- ・全国的にB材大型加工工場を建設したものの原木が集まらない事例があることから、航空レーザ計測データを活用して、資源量や施業地のデータを積み上げて生産規模を決めていくべき。
- ・川下がどのような材を求めているのかを確認したうえで、再造林の手法を検討してほしい。
- ・いきなりバイオマス燃料として燃焼するのではなく、まずは製材（マテリアル）として利用していく方向性を考えるべき。
- ・製材業を振興させるため、製材工場の規模拡大もしくは水平連携する施策やA材の活用について検討すべき。
- ・B材工場を本当に誘致すべきかどうか慎重に検討すべき。
- ・人材確保や離職防止を図る施策に加え、林業従事者の所得を向上すべき。
- ・自伐型林業の方が半Xを行うには、かなりの設備投資が必要なので、自伐型林業が集まった団体に対して支援すべき。
- ・幼少期の体験は、人格形成に大きな影響を与えることから、幼少期に森林体験できるように計画に取り入れてほしい。
- ・若手の担い手育成が必要
- ・近年の猛暑対策や豪雨対策が必要
- ・有機農業への転を進めるには販売先の確保が課題の一つであるが、学校給食で有機農産物を使用することが有効
- ・JA、県、市町が一体的に農地や集落の維持に向けて支援していく必要がある。
- ・生産量が少ないと価格交渉力が弱い。ストックを多く持つことで価格形成していくことができる。（価格転嫁には生産量が必要）
- ・餌料が高騰しており、魚価に反映する必要がある。
- ・嶺南地域にも園芸カレッジをつくるなど、嶺南で新規就農者が増える仕組みをつくってほしい。
- ・稲作が中心であるが、単価が安く、儲からないため、商品の質向上や販路の開拓などで高単価化させていきたい
- ・人口減少による地域コミュニティのあり方が変わっていくことを前提に、移住・定住等に取り組んでいく必要があるが、上手く進んでいないので、解決策を提案してほしい

<まちづくり・観光・文化・スポーツ・交通分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

- ・行き先はレインボーラインが多い。
- ・行き先は恐竜博物館、永平寺、東尋坊など嶺北が多い。
- ・農業にも着目している（冬季は酒造り繁忙期だが、春・秋の期間）
- ・開業後、観光客は増えている。特にあわら温泉は良くなっている。
- ・青年関係団体の横のつながりを復活させたいと考えている。そのきっかけとしてサウナをテーマに活動を行ってきた。
- ・恐竜ルームに改修した部屋は稼働が2倍になり、1.5倍の単価でも埋まっている。
- ・民宿について二次交通や民宿のイメージの払拭が課題であるが、「船盛」は宿泊者に好評である。
- ・レンタル自転車は市内観光に便利。晴れていると快適である。
- ・ハーツ恐竜店について、地域住民（福井市日之出地区）から「付近にスーパーがなかったの、ありがたい」との声を聞いている。恐竜という地域ブランドを活かした店舗は珍しく、県外組合から視察依頼がある。
- ・地域住民でも利用できるポッチャコートを施設内に設置している。より広く情報発信ができれば地域の方もスポーツに親しむ機会を増やせる。
- ・大学と連携した幼児向け運動の普及促進を図っており今後さらに強化していきたい。幼児向け運動プログラム等の普及促進、情報発信が重要であり取組みを進めていきたい。情報発信の場として幼児健診の場や保育士向け研修等の機会を活用できないか検討してほしい
- ・児童館などに出張しニュースポーツを指導している。子どもと高齢者が一緒に触れ合う機会があると良い。
- ・スポーツを通じて、健康づくり、仲間との交流ができ大変充実している
- ・ツーデーマーチを町で行っており、県外からもたくさんの方に参加をいただいている。

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・日帰り利用が多い
- ・嶺南まで行く人は1割程度、三方五湖襟が多い。
- ・競技人口・指導者が減少している。プライベート時間を重視する若者世代にいかにか引き継いでいくかが課題。
- ・施設予約が取りづらい状況にある。
- ・競技人口の減少、特に小学生、中学生。中学部活動の社会体育委託の流れは、理解するが、競技団体単位で中学校の顧問との話し合いや個人的な関係での連携には、限度がある
- ・スポーツ指導者の高齢化が進んでいる。指導者、ボランティアが不足し、後継者問題も

- ・総合型クラブとの連携など、中学校部活動地域移行に伴い、子どもたちのスポーツ環境が大きく変化している。
- ・福井しあわせ元気大会後、学校との連携が弱まった。放課後や部活等でパラスポーツに取り組む機会が増えるべき
- ・各特別支援学校に出向いて体験会などを開催し、競技に触れてもらう機会が必要
- ・選手発掘が急務であり教育委員会との連携が必要
- ・スポーツを通じて生活の充実に繋げていきたい。障害者の居場所づくりであり続けたい。
- ・活動費が不足しており持ち出し分が多いため支援額を増やしてほしい
- ・新幹線開業後の県内飲食店について、期待していたほどお客が増えていないので、人材確保に業界が消極的になっている。福井駅周辺の新店舗の勢いもずいぶん薄らいだ。
- ・人口減少による地域への影響を踏まえ、自治組織や地域コミュニティの単位としての公民館のあり方の議論を喚起したいが、行政主導で進めることが難しい
- ・指導者派遣の事業について県民にどの程度周知されているのか疑問
- ・JSP0-ACP（子どもたちに運動の楽しさを伝える活動）の認知が低い。保育・教育現場や総合型クラブ等へ活動を広げていくことが子どもたちの運動不足解消につながる。
- ・北陸新幹線福井・敦賀開業後、宿泊施設の宿泊者数に濃淡は出ている。
- ・どこのホテルも人手不足しており、100%客室を稼働できない。
- ・開業後観光客の宿泊者が増えている。一方、人件費が上がり、人手が不足しており、休館日を増やしている。
- ・福井駅前の賑わいが限定的で、片町等まで広がっていない
- ・年縞博物館は、学校など団体を呼ぶには、売入れ側のキャパが問題。年縞博にも、1クラス規模の講義室があると、回せるクラス数が増える。年縞博物館は展示スペースが狭い。特別展の場所が必要。カフェもバックヤードが狭く、提供品目を増やせない。特別展や講演ができるスペースなどが必要。
- ・原子力、エネルギー政策について、県民がもっと理解を深めていくことが必要
- ・バス減便により、高校への進路選択への影響を懸念
- ・バスが走っていない地区になってしまうと、その地区に住むという選択から外れてしまうなどの影響が出ることを危惧
- ・地元住民も観光客も双方が集まるスポットができるといい。
- ・長期滞在できるような観光の核になる魅力的なスポットがなく、観光客がわざわざ来ようと思わないのではないか。
- ・星空の授業を苦手とする小学校教員が多いため、自然保護センターで小学生を対象にセンター職員による星空の講義ができると良い
- ・子供は生きた動物などに興味があるため、自然保護センターにもっと生体展示を増やすと良い
- ・星空関連、自然体験プログラムなどで、キャンプ場と自然保護センターで連携していきたい。キャンプ場をチェックアウトした後に寄る場所として利用を促したい。子供に学びになる施設や安心して訪れることができる施設であってほしい。

- ・敦賀駅前から観光スポットまでの距離があり、高齢者が歩くには負担になる。途中、休憩する場所も少ない。
- ・敦賀市内がきれいに整備されたことを知らなかった。新幹線開業ニュースで知った。奈良県には福井県の情報があまり伝わってこない。
- ・関東方面からの観光客は大幅に増えているが9割が団体バスである。経営的には規模重視しており、団体の受け入れを優先している。
- ・深刻な運転手不足であり、生活路線を減便・廃線せざるを得ない状況。2024年問題への対応や、キャッシュレス決済の導入による高齢ドライバーの退職者増が主な要因。
- ・高速バスや観光路線などの収益事業にも手が回らなくなっている。
- ・福井には恐竜や足羽川の桜など、素晴らしい素材がたくさんあるが、活かしきれしていない。もっとビジネスへの活用を考えるべき。
- ・宿泊のキャパが足りていない。
- ・インバウンドはやっていかないといけない。福井は泊まるところが少ないから、インバウンドの宿泊が少ないのは当たり前。来訪者はたくさん来ている。
- ・スポーツ用具を補完する場所が限定され困っている。パラスポーツセンターなどハード面の整備も希望する
- ・高齢者や障がい者は活動に参加するための交通手段に乏しい。移動に苦勞するため交通費や輸送手段の確保などの支援があると助かる
- ・地域住民向けの大会等も開催したいが運営側の人材不足で難しい状況にある
- ・部活動地域移行について、県の財政支援が少ない。外部指導者の謝金・旅費等の支援が継続的にあると助かる。改革推進期間で県からの具体的な施策が見えず不安。保護者負担が増加することで生徒のスポーツ離れが加速
- ・子どもを預けてまで自分の運動時間は確保しづらい
- ・課題は、連盟加盟費が1.5万/年ぐらいの会費を払わなければならない、嶺南の加盟者が少なく、加盟していないため、練習試合もできず、嶺北と嶺南の交流が全くない。
- ・スポーツレクリエーションについて、鯖江はいろいろなことをやっているが福井市にはない。県や市と交渉しても2~3年で担当者が変わってしまうので、交渉に苦勞する。
- ・サッカースタジアムも新設か改修の検討をしてほしい。JFLに昇格した際に、現有施設は観客数などの基準を満たしていない。
- ・9.98スタジアムはピッチが小さく更衣室が少ない。テクノポートは上記に加えて、落雷など懸念。
- ・交流人口の拡大として何かできないかを考えている。高齢化に伴う、登山道を整備する人の減少問題を解決できるように、整備活動内容をPRできるようにしていきたい。県には、広報活動の方法を教えてほしい。
- ・すべての体育施設が30年以上経過しており、バリアフリーやLEDなどになっていない。陸上競技場は地盤沈下もしており、修繕に2億円はかかる状況。そのため、県外大会を引っ張ってくることは現状できない。
- ・町民が集まる運動会を開催しているが参加者の減少が問題。少子高齢化や若者離

れで、区として参加ができないことも

- ・高校では、福井農林高校、敦賀気比高校、若狭東高校しかレスリング部がなく、特に嶺北ではレスリングを続けたいが、進路とのずれからレスリングをやめてしまう現状がある。

- ・持ち回りの大会にあまり手を挙げていない。手を挙げたとしても、運営にかかりっきりになってしまい、企画・演出など他のところになかなか目を向けられていない。

(3) 望ましい将来像

- ・新幹線が来てから業績がいいが、日本の人口が減る中でインバウンドは大切
- ・商業施設やスポーツジム、テーマパークなど、近くに楽しい施設が増えるとよい
- ・空き家をリノベーションして家やホテルに利用し、地元の人を呼び込めるとよい
- ・いろんな場所でバリアフリー化が進んでほしい
- ・公共交通機関の利用待ち時間に、友達と話して過ごせる場所が充実されるとよい
- ・点字ブロックの設置範囲が広がってほしい
- ・人口減少により、従来のインフラを維持できないことを踏まえ、どのような市のあり方がよいか、撤退戦略を含めて、将来設計をしっかりと描いていきたい。将来的な地域コミュニティ、社会インフラへの影響を住民に理解してもらい、課題意識を住民と共通認識化したい。

- ・卓球台など常時設置されている場所があれば気軽にスポーツに親しめる。
- ・自転車と歩行者が分離された自転車が走りやすい走行空間を確保してほしい
- ・自歩道がないような道路でも安心して自転車が走れるようにしてほしい
- ・ラーケーションを誘致してはどうか
- ・路線バスを必要なインフラと考えていただけるなら、長期的な支援をお願いしたい

- ・青々吉日 CP「人とつながる部会・QWS 企画」について：プロジェクトをやって終わりではなく、今後活かしていくことが重要。

- ・新幹線あわら駅からの2次交通について、嶺北一体で考えるべき
- ・団体バスで来園する観光等方面からの観光客は70代など高齢者が中心。若い世代は個人旅行が中心であり、ゴコイチバスは必要である。特にインバウンドは日本人が落ち込む冬場の底上げや平日の誘客を進めたく、ゴコイチバスが通年運行すればPRしやすくなる。

- ・化石研究体験において、本物の化石に触れる機会を創出してはどうか。県内の子供たち全員に毎年来館してもらおうとよい。出前授業の回数を増やすなど、地元の教育をより充実させる役割を果たしてほしい。

- ・インバウンドの客層は以前と変化している。一度オーバーツーリズムになってしまうとコントロールが困難であるため、慎重に考えるべき。

- ・長年の積み重ねで世界的レベルの博物館に育ててきた。教育員委員会や福井大学、県立大学とより緻密な連携を図り、地域の子供たちに還元してもらいたい。

- ・コンテンツ（ツアーなど）は新幹線を売らないといけないので勝手に作られていく。大事なのは県がビジョンを掲げること

- ・陸上大会時に競技場内に子どもを預かってもらえる場所があると安心して参加で

き大変ありがたい。幼い子供にとってもスポーツに触れる機会となり普及へ繋がる。

- ・全天候型あそび場を増やしてほしい。運動公園に新しくできた室内あそび場は大変助かるが利用者が多いため、もっと様々な場所にあると嬉しい
- ・親が子どもと一緒に体を動かすきっかけがほしい。子育てママ同士の繋がりも広がり、楽しんで体を動かす機会となる
- ・夏場の運動量が減少するため、室内での活動機会が充実すると良い
- ・園児への指導を充実化するため職員向けの勉強会・体験会が開催されると良い
- ・子育てママは家に帰ると家事や子育てに追われ自分の時間が取れないため、職場で簡単にできる運動の機会があるのは大変ありがたい。
- ・フレイル予防のため、簡単な体操や軽運動に取り組んでおり健康づくりに役立っている。運動だけでなくコミュニケーションの場としても重要性を感じている
- ・公民館や地域コミュニティセターなど身近な拠点で高齢者の体力チェックを実施してほしい
- ・家庭に戻ると時間が作りづらいため職場で体を動かす機会があるとありがたい
- ・「スポーツエールカンパニー」制度は、認定されることでハローワークの求人票や求人情報にロゴを使用できるため企業側にメリットがある
- ・合同企業説明会等に参加しやすいインセンティブや県からの評価があるとありがたい
- ・大規模イベント開催時の交通について課題を感じている。セーレンアリーナが会場の場合、駅前からバスを出しているが利用率は低い状況にある。
- ・桜マラソンのすぐ後につつじマラソンが開催されるため、今後日程などを考える必要がある。
- ・新幹線開通により、鯖江に特急が止まらなくなってしまったため、西日本からの誘客が心配。駅がないため、市外のホテルで泊まってしまうのでは。将来的には、種目変更も検討している。
- ・県立美術館の今後をよく検討すべき。地域の文化団体と長い間関わりを持ってきているので、県とも協働して活動の底上げを図りたい。
- ・企業と文化のかかわり方について、きちんと整理した上で企業に理解を求めるべき。
- ・芸術文化人材データベースについて、内容の充実を図るべき。
- ・障がい者が創作や鑑賞する機会の充実を図ってほしい。
- ・世界に誇るハーモニーホールでの公演鑑賞を組み入れたツアーを造成してはどうか。
- ・ふるさと納税のPR（広報費）に力を入れていけると良い。

（４）将来像を実現するために必要なこと

- ・展示が変わったという印象を与える目玉となる更新が必要
- ・生体展示は魅力的。今の生体展示を拡充してはどうか
- ・自然観察指導員の会や野鳥の会などのコーナーを設けて、定期的な更新
- ・来館者を増やす展示を目指すなら、生体展示、体験コーナー、癒し空間の創出

- ・上記について具体的には、冬の野鳥レストランの充実、昆虫展示館の新設、シアタールームの新設などが考えられる
- ・永平寺や東尋坊など観光地への観光利用を促進に努める
- ・適正なモビリティ（乗合タクシー、デマンド）への転換を県内全域で検討してほしい
- ・小浜線の利便性向上のため、ダイヤの見直しや交通系 IC 導入の検討を進めたい
- ・住民の移動や観光客の周遊のため、市町を跨ぐ移動手段の充実を図りたい
- ・若者によるイベントを開催し、人を呼び込むことを企画していきたい。
- ・各団体のコネクションを活かし、他都道府県イベントで福井県、嶺南地域の出向宣伝を行ってほしい。
- ・観光列車との連携は魅力的であり、ロゴの活用など行いたい
- ・インフルエンサーなど発信力のある方と地元料理人や農家を巡る動画を作成し、情報発信するのはどうか。
- ・情熱のある若い料理人を応援した方がいい。
- ・スポーツ界の魅力をマスメディアを活用し広く発信していくことが必要。
- ・プロスポーツばかり優先されず高体連や中体連の大会で使用できる機会を増やしてほしい。
- ・求められるスポーツの在り方は多様。生涯スポーツに親しみたい人、競技力を高めたい人など様々なニーズがある。地域移行では受け皿への財政的支援や受益者負担の在り方を協議する必要がある
- ・イベント時に一時的な広報をするのではなく、公民館など身近な場所で継続的に体を動かす機会を作り、広く周知すると良い。
- ・競技力強化のため、練習場所の確保と費用負担が課題。
- ・運営する側を育てる観点が必要ではないか。また、協会単独での活動は制約が多いが、他団体と連携して、活動の幅を広げることが大切。
- ・市町スポーツ推進員やパラスポーツ指導員と連携し、横のつながりを強化することが大切。
- ・福井市だけではなく他市町においてもパラスポーツ体験教室を開催してほしい。各市町の指導員にとっても活躍できる機会を増やせる
- ・指導員同士の横の繋がりを確保する機会があると良い。指導員のスキルアップの機会も設け専門的なアドバイスを受けられる研修会等があると良い
- ・また、活動が周知されにくい状況にあり、新聞などのマスコミを使って体験会などの情報を定期的に広く知らせる機会を持てると良い。
- ・就学前の運動経験が重要であるため、未就学児を受け入れる団への支援があると良い。
- ・身体、知的、精神の3障がいと一緒に楽しめるスポーツ種目があると良い
- ・スポーツ用具が高価なため始めたくても難しい場合がある。レンタルできる仕組みがあると良い
- ・障がい者と健常者が一緒に参加できる大会等を設けてほしい。周知を強化し実際に来て体験してもらう機会を増やすべき。医療機関で情報提供してもらうようにすると良い

- ・障がい者の特性を理解した上で寄り添った形でサポートできるようにボランティア養成をしてほしい
- ・気軽に組み入れるニュースポーツ等の体験会があれば楽しく参加できる。
- ・福井駅前における恐竜を活かした賑わいづくりについて、熱心な企業に声掛けをしてほしい。
- ・大河ドラマ「光る君へ」で安倍晴明が注目されているので、おおい町の暦会館、天社土御門神道と陰陽道のPRができるのではないかな。
- ・大河ドラマ「べらぼう」にあわせて杉田玄白を打ち出せる。杉田玄白の『養生七不可』は日本初のウエルネス。暦会館で学べる二十四節気や七十二侯の考えをウエルネスに活用し、そのエピソードと食材で料理を提供できたら非常におもしろい。
- ・全国的に光の演出を用いたコンテンツが成功している。恐竜博物館や周辺において、光の演出を行うことでさらなる来館者の増加が見込めるのではないかな。
- ・人口減少による地域への影響を住民が危機感を持てるレベルで伝え、地域コミュニティを中心とした自治を促進したい
- ・新幹線あわら駅からの2次交通について、嶺北一体で考えるべき
- ・若い世代のパラアスリート発掘のためには医療機関や教育機関との連携が重要である
- ・パラ陸上の魅力をもって発信すべき。健常者と障がい者の交流を深める機会をもっと増やすことが重要
- ・新規選手の獲得や県障がい者スポーツ大会の参加促進を図るため、県校長会に協力依頼するなど、行政間の連携を図るべき
- ・Juraticが10年経過し、そろそろテコ入れをしないと廃れていく。
- ・例えば、大企業とのコラボは効果的。
- ・福井産の恐竜が3体から6体が増えており、新たなキャラクターを作るのも良い。
- ・5月～10月までの閑散期の利活用として、映画等の口ケを誘致できないかな。
- ・これまで国立淡路青少年交流の家が口ケ地として活用されていると聞いているので、同様に活用できるように制作会社等にPRしてほしい。
- ・NHK大河ドラマに本県ゆかりの人物を主人公とし、本県を舞台としたドラマを誘致したい
- ・観光は超レッドオーシャンで、資金力、スケールが求められる
- ・観光戦略が総花的になるのは理解できるが、企業としてはスポットで成果を出すことが必要
- ・道路の修繕などは、地元企業に任せるなど早期対応ができる体制をお願いしたい
- ・橋梁など道路構造物のメンテナンスがますます重要。
- ・道路改良は、ネットワークとして機能するよう長期的な観点から構想や計画を立てていく必要がある。
- ・北陸新幹線が敦賀でとまっていることから、関西との連携強化が必要
- ・(年縞博物館は) マニアックな方を対象とするツアーを呼んではどうか。年縞博物館は狭すぎる。研究素材を置く倉庫もない。カフェも狭い

- ・ 運転士不足が深刻なので、運転士のやりがいなどを周知すべき
- ・ 交通系 IC カードは通勤利用者には浸透していると思うが、それ以外の利用者には未だに浸透していないと感じる。そういった方にも周知をすべき
- ・ 現行の国や県のバス運行経費への支援制度は、基準額（上限）があり、実際の赤字額を補填してくれるものではないため、さらなる支援を望んでいる。
- ・ バス運転手の賃上げに対する支援については、支援のなくなった後も同じ水準を維持していけるかという課題があり、単年度で解決できない複雑なものである。長いスパンで考えていただけるとありがたい。

<結婚・子育て、県民活躍分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

- ・屋内の広いところで子どもが遊べる施設ができて大変ありがたい。親同士の交流の場にもなる
- ・福井県は、子どもの発達についての相談が気軽に保健師等にできる環境となっていることが良い

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・人口減少対策として、出生率を上げていきたいが、特に男性を中心に、そもそも結婚する者が少ない
- ・親子の関係性とか退所後どこに住むかとか、ある意味全部取っ払って、「何もなかったとして何をしたい」って聞いてくれる人っていない。意見表明支援員には期待したい。

(3) 望ましい将来像

- ・家族だったら距離が近すぎたり、遠すぎることもある。程よい距離感のコミュニティーがあったら良い
- ・顔をつき合わせて直接話をするのが地域づくりにつながる
- ・子育ての喜びや毎日のいきがいなど、こどもを通して大人自身が学ぶようなポジティブイメージの発信が大事
- ・社会とのつながりが薄れている引きこもり（65歳未満が対象のイメージ）に対して、在宅やお試的に雇用してもらえる場を提供したい
- ・施設を退所したこどもたちは社会に出て誰かに頼ることも遠慮してしまうことがある。相談していいんだ、困っていてもいいんだということを伝えることも重要
- ・施設の退所直後の自立支援があることはありがたい。困りことは突然起こったりもするので、すぐに相談できる場所があると心強い。
- ・同じような境遇のこどもたちが集える場や支援者側に意見を言える場があるとよい。
- ・こどもの意見表明の支援は、独立性が担保された団体が行うことで頼りやすくなる。
- ・誰かがいて欲しい人もいれば、誰もいないほうが良い人もいる。同年代がいてもいなくても年が離れている方が話しやすい人もいるなど、人によって違う。色々なニーズに対して対応できる選択肢を用意するということが大事だと思う
- ・安心して入れる場所、否定しない人や頼れる人がいる場所、話しかけてくれる人がいる場所があると良い
- ・経済格差や情報格差によってこどもの時間が持たえられて、なんとなく進学、就職とならないよう、こどもたちが自らの可能性を発見できるような学びの場や遊びの場を整備していくべき
- ・子育てを強力に支援する企業を評価するような仕組みがあるとよい。
- ・子育ても楽しむことが大事。楽しむことが継続につながる。そのためには、経済

的、時間的、精神的な余裕が必要であり、それぞれの分野で余裕をどう作るかを議論すべき。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・外国人が暮らしやすい社会の実現や県民との交流にむけて、日本人県民側も「やさしい日本語」を使うなどの対応が必要
- ・地域の人材が枯渇する中、どのように人を出していくかを議論する必要がある
- ・縦割り行政をやめ、相談窓口を一本化していくことが大切
- ・施策の周知については、届けるべき人にしっかり届けることが大事
- ・女性活躍だけでなく男性の家庭進出支援、啓発活動もしていくべき
- ・未婚者やこれから子どもをもとうとしている人に、子育て支援に関するボランティアに関わっていただくなど、子育ての楽しさを味わってもらおうと良い
- ・現状、検診のたびに書類を書かなければならないので、子どもの発達等を入力して行政と共有できるアプリがあるとよい
- ・誰かにとっての近い場所は、誰かにとっての遠い場所にもなりえるため、キャンピングカーやキッチンカーみたいに空間ごと動く居場所があると良い（本、イス、相談者）自分の役割や、席があると自分は必要とされていると実感できる
- ・既存道路を有効活用し通学路の安全確保を図ってほしい

<医療・健康・介護・福祉分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

・健康危機発生時における対応については、新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、医療機関や民間事業者等との協定締結に基づく医療提供体制や移送体制の構築などにより必要な体制が確保されるようになった。

(2) 福井県の改善すべきところ

・犯罪をした人の更生に当たっては、住居確保の支援が不可欠。身元保証人の不在や、家賃滞納・近隣住民とのトラブルへの恐れにより、賃貸住宅への入居が困難になっている。

・薬局においても薬剤師確保に苦慮している

・地域において、「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム」の重要性が謳われているものの、現実にはメンタルヘルスの課題を持つすべての人にとって住みよい地域、精神障がい者も含めた地域共生社会の実現には至っていない。

(3) 望ましい将来像

・薬剤師のUターン、Iターン就職を促進できるような補助等があるとよい

(4) 将来像を実現するために必要なこと

・県と関係機関との連携を深め、出所者を円滑に福祉サービスへつなげるための情報共有の強化が必要。

・薬剤師の在宅対応を推進するためにも薬剤師が必要である

・薬剤師会として委託を受けている事業により、県内高校生の薬学部進学を一定程度確保できていると考えている。引き続きお願いしたい。

<防災・環境分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・鳥獣害については、林業の衰退など社会の変容とともに問題化した側面もあるので、今すぐに改善することは難しく長期的な取り組みが求められる。
- ・気候変動適応について、認知度や関心のある事など意識調査に努めるとともに普及を進めてほしい。
- ・次世代自動車への転換も重要であるが、自動車の利用自体を減らしていく取組も重要であり、ハピライン等の公共交通機関を使いやすくして多くの県民に利用してもらえるような施策を検討するとよい。
- ・自転車通勤の推進は企業それぞれの考え方でよいが、カーボンニュートラルやSDGs、健康などの観点からも自転車や公共交通の活用を考えるべき時代である。
- ・外来生物を一方向的に悪者扱いするのではなく、環境教育の中で人間の利便性のために持ち込まれた種もいること等も教えながら駆除を考えていくようにしてほしい。
- ・食品ロス対策は、企業に対してまだまだ働きかける余地があると思うので、ヒアリング等を行いフードドライブ等様々な対策を推進してほしい。
- ・エシカル消費については、長い期間かけて恒常的に発信していかないといけない。

(3) 望ましい将来像

- ・脱炭素に関する環境教育を充実させるとよい。
- ・運輸部門の公共交通利用促進による削減目標△1千トンは消極的だと思うので、県においてもより電車やバス、公共交通の利用を促進してほしい。
- ・再生可能エネルギーの導入促進について、補助金以外にも振興策があるとよい。
- ・避難所に備蓄すべきもので必要な物は、猫用のケージ、キャリー、リード。首輪は必須。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・鉄道はさまざまな輸送機関の中で最も環境負荷が少ない手段なので、モーダルシフトを促す施策を県でも検討するとよい。
- ・ZEH 住宅について県独自基準を作るのは良いことだが、基準が厳しくなると普及の面ではマイナスなので補助金等の対策を検討するとよい。
- ・気候変動適応について、認知度や関心のある事など意識調査に努めるとともに普及を進めてほしい。
- ・次世代自動車への転換も重要であるが、自動車の利用自体を減らしていく取組も重要であり、ハピライン等の公共交通機関を使いやすくして多くの県民に利用してもらえるような施策を検討するとよい。
- ・外来生物を一方向的に悪者扱いするのではなく、環境教育の中で人間の利便性のた

めに持ち込まれた種もいること等も教えながら駆除を考えていくようにしてほしい。

- ・食品ロス対策は、企業に対してまだまだ働きかける余地があると思うので、ヒアリング等を行いフードドライブ等様々な対策を推進してほしい。

- ・同行避難の啓発チラシについて、動物病院での配布のほか、公民館にも置いてはどうか。ペットを飼っていない人も知るきっかけになる。

- ・動物愛護推進員の有資格者要件について、愛玩動物看護師も国家資格となったので加えて欲しい。

- ・各地域の動物愛護推進員の交流を図るために、定期的に意見交換会を開催して欲しい

- ・現行の協定についてペット支援とアニマルセラピーの内容が入った協定へ前向きに改定を進める。協定締結後、顔の見える関係を継続してほしい。締結後期間が空いて紙切れ1枚だけの関係だと、いざ災害が起きた時に対応が遅れてしまう。そのためにも、消防警察と訓練を行うことで、救助犬の特性や仕組みを理解してほしい。

- ・企業がエシカル消費に取り組むメリットは短期的にみるだけでは少ないが、エシカルは世界標準になりつつある、長期的にみて今やっておかないといけない。ものづくり企業の調達、畜産業の動物福祉等、近年エシカルの社会課題は拡大している。地方から元気になることが、エシカル消費普及のために重要である。

<教育分野>

(1) 福井県の良いところ・伸ばしたいところ

(2) 福井県の改善すべきところ

- ・公園でボール遊びが禁止されるなど、子どもたちが気軽に遊べる場所が減っている
- ・部活動を指導する人材が不足
- ・SC、SSWの体制強化、SSWの待遇改善（報酬単価引き上げ等）をお願いしたい。SSWについてなり手が少ない。
- ・教育現場では、育休を取得する教員等が増え、予想以上に教員不足が生じている
- ・新任の社会教育委員は何をしてよいかわからないから、1年間の社会教育活動に資するような研修をし、地域を良くするための方策等を学ぶ必要がある。
- ・子どもたちが本に触れる機会や、本を手にとろうという環境が以前よりも不足している
- ・きっかけがないと保育者になろうとしない
- ・小学生の親子を対象にネット安全教室を実施すると、すでに使わせてしまっていて、今更ルール作りをするのが困難という親からの意見もある。今は小学校に入る前からほとんどの子どもがネットに触れているので、その年代から親と一緒にネットとの上手な向き合い方を学んでいくことも大切。

(3) 望ましい将来像

- ・SDGsについて、楽しみながら学べ、協力することが大切だと思った。
- ・インターネットフィルタリングの意義や必要性を保護者や子ども自身を理解させることが重要。
- ・小学生が多くの時間をインターネットに費やしている。学校生活以外の時間にも、インターネット以外のものと触れ合う機会を確保していくことが課題。
- ・これからの時代を生きる福井県の子どもたちに、教育現場と行政が協力して、コミュニケーション能力や探究力等をつけていきたい
- ・正副委員長や市町事務局に話し合ってもらい、リーダーとしての位置づけをしてもらい、自覚を持って活動できるようにしていくとよい。
- ・中学校の職場体験をクラス全員で参加すると良い
- ・目立つ子だけではなくて、目立たない部分で頑張っている子も評価されていることが大事。大人を信頼していないと、こどもも相談しないし、活動しない。信頼できる大人が近くにいるといい。
- ・必要な情報が、求めている層に届く周知方法が大事。
- ・どんな親の元で生まれても、自分の生き方を選べる人生であるべき。

(4) 将来像を実現するために必要なこと

- ・若者が減っていく中、農業従事者が減らないように授業の中で農業をもっと学べるようにすべき
- ・地元の高校生やその保護者を対象に、都市部、敦賀どちらで就労するか、などの

選択に応じた将来イメージを具体的に伝え、都市部でホワイトカラー労働者となることを是とする価値観を変えていき、敦賀に残る選択を促したい

- ・インターネットを安全に楽しく使うためにどうすべきか世の中が転換している中、大人の意識改革も必要。親子参加の啓発イベントについて、広く周知し参加して欲しい
- ・優良図書について、各市町の小中学校に現物を届けられるような対応を検討して欲しい
- ・学校図書館の本の冊数や種類が増えるとよい
- ・普段、読書をしていない友達に読書をすすめるには、読書ができる場所を増やしたり、読書について楽しいイベントをするとよい。また、友達と本の話をするのもよい
- ・GIGA スクール第2期を視野に入れ、ICT 活用の活用格差を解消し、個別最適な学びを推進していくべき
- ・家庭・地域・学校等が連携して読書推進に取り組むことが必要
- ・幼少期までの読書経験は重要。子どもの読書環境や言語環境を支える大人の役割が大切。
- ・子どもが子どもに本をすすめることは、子どもの読書活動推進に効果的
- ・大人が本を読まない現状が子どもに影響を与えている
- ・子どもと親と一緒に本を読み、親子で共通の本の話をするなどといった工夫が必要
- ・人口減少のスピードを緩めるために、若者が地域に留まりやすい環境や子育てしやすい地域社会を作ることが必要
- ・地元への愛着を育むために、幼少期からの地域活動が重要
- ・地元での体験活動が、将来の地元就職につながる可能性がある
- ・保育者になろうと思えるきっかけづくりが大事では。悪いニュースではなく、良いニュースを取り上げるべき
- ・保育士の処遇改善と魅力発信をまずは優先的に取り組むべき